

# 上ノ国町文化財ミュージアム建設基本構想

令和8年3月

上ノ国町教育委員会



## 序

上ノ国町は、北海道夜明けの地として中近世に遡る多くの文化財を有しています。その中でも史跡上之国館跡(花沢館跡 洲崎館跡 勝山館跡)の三館は、日本中世史において北方日本海交易で重要な役割を担っていたことが評価され、昭和 52 年に史跡指定されています。

史跡上之国館跡のうち勝山館跡は、四半世紀以上に及ぶ発掘調査や整備事業により、アイヌと和人の共生の歴史など、北日本の中世史を書き換えるような知見を得ることができました。そのお蔭をもちまして、現在では各種マスメディアや高等学校の教科書に勝山館跡が紹介され、全国的にみましても貴重な史跡であることが次第に認識されつつあります。

しかしながら、それらの魅力を伝える町内の文化財施設が老朽化によって経年劣化が生じ、本質的価値を伝えることに支障が生じておりました。そのため、日本国民にとってかけがえのない遺産である当町の文化財を、持続可能な取り組みによって保存活用する文化財ミュージアムを建設する運びとなりました。

事業の初年度となる令和 7 年度は、建設委員皆様の協力を得て、文化財ミュージアム建設に係る基本方針を示した『上ノ国町文化財ミュージアム建設基本構想』を策定しました。

現在は、かつて勝山館跡の整備事業が始まった時代と比較して、我々を取り巻く社会状況というのは全く異なっており、この厳しい環境の中で行政としてどのようなことができるのか、今一度課題に対して真摯に取り組み、着実に事業を進めて参りたいと考えております。

末筆ながら事業推進にあたり、上ノ国町文化財ミュージアム建設委員会をはじめ内閣府、文化庁、北海道教育委員会の関係機関並びに関係者各位から多大なご協力を賜りましたことを衷心より感謝申し上げますところであり、今後におきましてもより一層のご指導をお願い申し上げます。

令和 8 年 3 月

上ノ国町教育委員会教育長 上野 敦也

---

## 例 言

1. 本書は、北海道檜山郡上ノ国町に所在する文化財の公開活用及び保管を行うミュージアム建設に関する基礎的な事項を定めた『上ノ国町文化財ミュージアム建設基本構想』(以下、「本構想」)である。
  2. 本構想は、上ノ国町教育委員会事務局が原案を作成し、上ノ国町文化財ミュージアム建設委員会での検討を経て、令和 7 年度に策定した。
  3. 本計画の策定に係る事業経費は、内閣府のアイヌ政策推進交付金及び上ノ国町で負担した。
  4. 本計画の策定に係る事務は、上ノ国町教育委員会事務局社会教育グループが担当し、策定に係る支援業務を歴史地域未来創造株式会社やまちに委託した。
-

---

# 目 次

## 第1章 上ノ国町文化財ミュージアム建設基本構想の策定

|                                  |    |
|----------------------------------|----|
| 1 策定の目的 .....                    | 1  |
| 2 上ノ国町の施策と基本構想の位置づけ .....        | 1  |
| 3 委員会の設置と開催状況 .....              | 3  |
| 4 上ノ国町の歴史文化の特徴 .....             | 5  |
| 5 他都市の関連施設(アイヌ関連施設・中世関連施設) ..... | 12 |
| 6 上ノ国町の文化財等をとりまく現状・課題 .....      | 15 |

## 第2章 文化財ミュージアムの事業について

|                               |    |
|-------------------------------|----|
| 1 文化財ミュージアムの「使命」と「めざす姿」 ..... | 17 |
| 2 文化財ミュージアムの活動フィールド .....     | 18 |
| 3 文化財ミュージアムの基本姿勢 .....        | 19 |
| 4 文化財ミュージアムの活動イメージ .....      | 20 |
| 5 文化財ミュージアムの事業展開 .....        | 21 |

## 第3章 文化財ミュージアムの施設整備について

|                                 |    |
|---------------------------------|----|
| 1 施設整備の考え方 .....                | 25 |
| 2 文化財ミュージアム施設に求められる必要諸室 .....   | 30 |
| 3 施設整備位置の検討および関連施設等との機能分担 ..... | 31 |
| 4 新規整備施設機能構成・整備条件 .....         | 37 |
| 5 文化財ミュージアム拠点施設の配置パターン検討 .....  | 42 |
| 6 管理運営・施設整備手法 .....             | 46 |

## 第4章 今後の進め方

|                |    |
|----------------|----|
| 1 検討課題 .....   | 48 |
| 2 スケジュール ..... | 48 |

---

# 第1章 上ノ国町文化財ミュージアム建設基本構想の策定

## 1 策定の目的

上ノ国町では、国指定史跡上之国館跡(花沢館跡 洲崎館跡 勝山館跡)の発掘調査によって、15世紀末～17世紀初めに「アイヌと和人の共生の歴史」が確認されています。その中でも象徴的な発見は、勝山館跡後方の夷王山墳墓群でアイヌ墓と和人墓が隣り合うように発見されたことでした。

宗教観の異なるアイヌや和人の土葬墓が隣り合って構築される様子は、民族・文化・価値観・ライフスタイルなどの違いを積極的に尊重して受け入れる「ダイバーシティ(多様性)」の概念を彷彿とさせ、アイヌ対和人という二項対立と異なる多様な社会が勝山館跡の中に存在していたことを示唆しています。

そのアイヌ墓から発見された副葬品、御遺骨は現在、上之国館調査整備センターで安置されています。一方、勝山館跡の10万点を超える出土品は、当時の生活や本州と北海道における交易・物資の流通、アイヌと和人の関係を解明する上で欠かせない資料と評価され、平成20年(2008)7月10日付で921点が重要文化財「北海道上ノ国勝山館跡出土品」に指定されています。

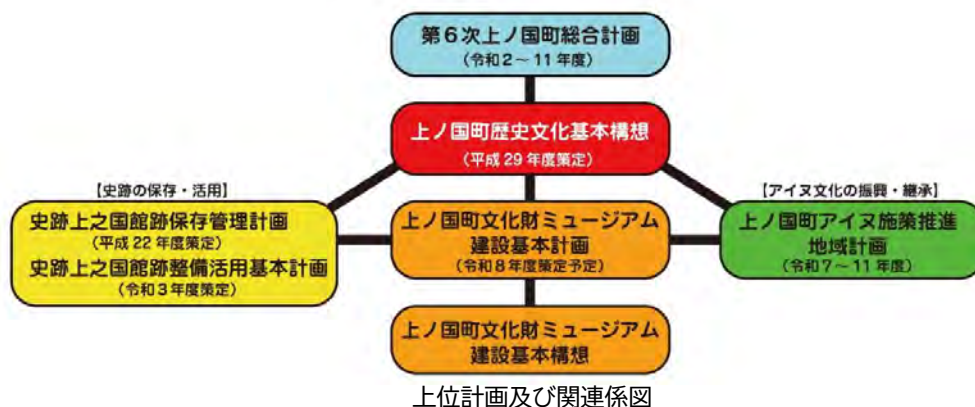
しかしながら、アイヌ資料や多くの歴史資料の収蔵と展示の拠点となっている上之国館調査整備センターは、築70年以上で老朽化が著しく、アイヌ資料を含む文化財を適切に保存活用することが困難な状況となっているため、この地域で活動したアイヌを語る上で欠かすことのできない、中世における「アイヌと和人の共生の歴史」の情報発信やアイヌ御遺骨の恒久的な保管を行う文化財ミュージアム建設の必要性が生じました。

そのため、適切な文化財の保存活用やアイヌの尊厳の回復と文化振興を目的とした上ノ国町文化財ミュージアムを建設するにあたり、「上ノ国町文化財ミュージアム建設基本構想」(以下、「本構想」)の策定を行います。

## 2 上ノ国町の施策と本構想の位置づけ

### (1)上位計画及び関連諸計画

本構想は、「第6次上ノ国町総合計画」(令和2～11年度)、「上ノ国町歴史文化基本構想」(平成29年度策定)を上位計画に掲げ、翌年度に策定する「上ノ国町文化財ミュージアム建設基本計画」の基礎となる事項を定めたものです。また、「史跡上之国館跡保存管理計画」(平成22年度策定)、「史跡上之国館跡整備活用基本計画」(令和3年度策定)、「上ノ国町アイヌ施策推進地域計画」(令和7～11年度)と整合性を図りながら構想づくりに取り組みます。



## (2)ミュージアム建設位置について

ミュージアム建設の位置は、令和3年度に策定した史跡上之国館跡整備活用基本計画で、以下のとおりとしています(以下、5-1・2Pより抜粋)。

### 第2節 三館のつながりを見せる広域整備の整備方針

#### 1. 整備方針

第2章で示した史跡指定地内の遺構・遺物の特性による区画や、史跡指定地外における史跡と関わりを持つ場所について地区区分を行い、今後の整備方針を明確にする。

場所が離れた三館で構成される史跡上之国館跡は、『保存管理計画』(H22年度)で「一体的かつ有機的な関連が図られるよう、ネットワーク上の史跡、歴史的建造物、ガイダンス施設などの全体における位置づけをそれぞれ明確にしなが、効果的な整備活用」を行うとある。

そのため、本計画でもこれらを踏襲し、三館からアクセスがしやすい地点にミュージアムを建設し、三館を連携するハブ拠点としての機能を持たせることで、三館のつながりが見える広域整備を推進していく。

#### 2. ミュージアム整備位置 (図5-2)

現状のガイダンス施設は、勝山館跡の指定地内に所在し、勝山館跡の情報発信を行っている。しかしながら、花沢館跡や洲崎館跡、町の中心部からも距離があるため、三館をつなぐハブ機能を果たすことが困難である。

三館を有機的につなぐミュージアムは、三館の全体像をわかりやすく伝え、回遊性を促し、歴史文化を活かしたまちづくりの推進につなげていくことを目指し、

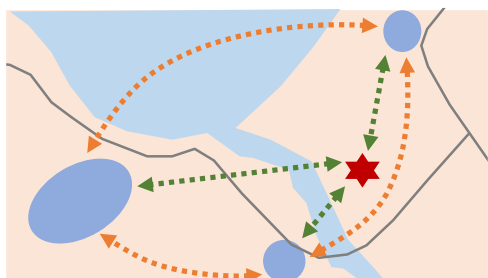
来訪者が通年で三館の本質的価値を学び、史跡への関心を高めることができるよう、利便性が良い一拠点型とし、既存の文化財施設である上之国館調査整備センターや周辺遊休施設の活用も検討する。勝山館跡に関する解説等を充実させ、勝山館跡指定地内に所在する現ガイダンス施設等は効果的な連携・役割分担を図る。

#### ■多拠点型：各館に拠点機能を設ける



・各史跡と拠点機能が一体であるため利用者にとってわかりやすい施設づくりになる一方、三館の全体像が分かりにくくなること、また整備コストの増加が懸念される。

#### ■一拠点型：上之国館調査センター周辺地域に拠点施設を集約する



・施設を集約することで、歴史資源の全体像を伝えることができるとともに、多様な動きが生まれ、まちづくりとの関わりも期待できる。一方で、現地での説明が不足しないよう配慮が必要。

### 3 委員会の設置と開催状況

本構想を策定するにあたり、町内外の有識者を中心としたメンバーで組織した「上ノ国町文化財ミュージアム建設委員会」(以下、「建設委員会」)を設置しております。また、地域住民や各種団体との意見交換の場も設定して意見集約を行い、地域との合意形成を図りながら事業を取り進めています。

#### (1)委員の構成

##### ●上ノ国町文化財ミュージアム建設委員会

| 役職     | 氏名     | 分野    | 所属                   |
|--------|--------|-------|----------------------|
| 委員長    | 小篠 隆生  | 建築計画  | 一般社団法人新渡戸遠友リビングラボ理事長 |
| 副委員長   | 西山 徳明  | 文化観光  | 北海道大学大学院教授           |
| 委員     | 上野 敦也  | 教育行政  | 上ノ国町教育委員会教育長         |
|        | 森岡 健治  | 博物館活用 | 国立アイヌ民族博物館研究交流室長     |
|        | 結城 幸司  | アイヌ文化 | コシャマイン慰霊祭実行委員会共同代表   |
|        | 田畑 恵   | 地域観光  | 上ノ国観光ガイド協会(歴史体験担当)   |
| オブザーバー | 佐藤 秀樹  | 地学協働  | 北海道教育庁檜山教育局教育支援課主査   |
|        | 市川 日菜子 | 建築    | 上ノ国町役場施設課主査(土木建築担当)  |

##### ●業務支援

| 氏名     | 分野      | 所属              |
|--------|---------|-----------------|
| 神長 敬   | 都市・地域計画 | 歴史地域未来創造株式会社やまち |
| 窪田 映子  | 都市・地域計画 | 歴史地域未来創造株式会社やまち |
| 百瀬 かなえ | 都市・地域計画 | 歴史地域未来創造株式会社やまち |

##### ●事務局

上ノ国町教育委員会 教育長 上野 敦也

上ノ国町教育委員会事務局 社会教育担当局長 塚田 直哉

社会教育グループ 主査 清水 友喜、太田 辰徳、竹井 陽平

主事 久末 卓真

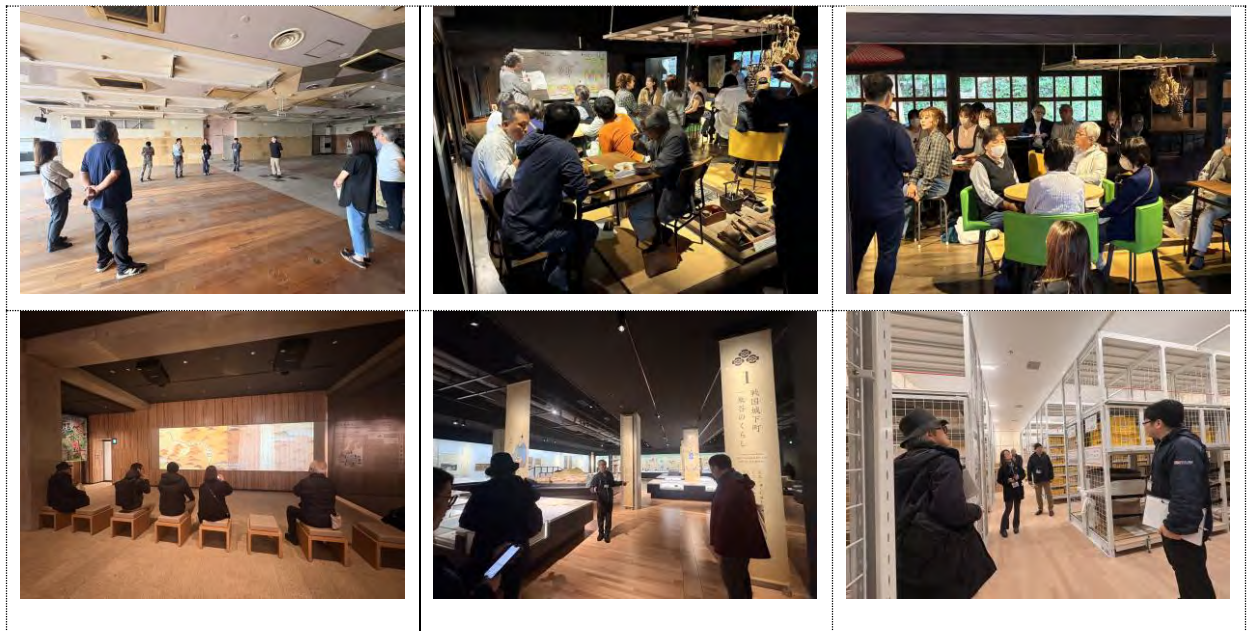
学芸員 佐藤 貢平

## 2. 本構想策定に係る検討の経緯

本構想を策定するにあたり、上ノ国町文化財ミュージアム建設委員会を3回、勉強会を開催し、検討を行いました。また、町民と意見交換等を行う町民ワークショップを1回実施しました。

### (1)委員会等の開催

| 委員会                       | 開催日                  | 協議事項・実施内容  |
|---------------------------|----------------------|--|
| 第1回<br>文化財ミュージアム建設委員会     | 令和7年8月4日(月)、5日(月)    | ・役員の選任<br>・文化財ミュージアムで伝えたいメインテーマの検討                   |
| 第1回<br>文化財ミュージアム建設委員会 勉強会 | 令和7年9月20日(土)         | ・既存建物の構造について<br>・文化財ミュージアムの機能構成について                  |
| 第1回<br>文化財ミュージアム町民意見交換会   | 令和7年9月20日(土)         | ・重要文化財旧笹浪家住宅において、地域住民が関わる文化財ミュージアムについての意見交換          |
| 第2回<br>文化財ミュージアム建設委員会     | 令和7年11月27日(木)、28日(金) | ・文化財ミュージアムの基本方針ほかの検討<br>・先進地視察の日程について<br>・令和8年度の事業計画 |
| 第2回<br>文化財ミュージアム建設委員会 勉強会 | 令和8年1月23日(金)～25日(日)  | ・福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館(福井市)における先進地視察の実施。                   |
| 第3回<br>文化財ミュージアム建設委員会     | 令和8年2月12日(木)、13日(金)  | ・文化財ミュージアムの基本構想について<br>・第3回ワークショップの内容について            |



## 4 上ノ国町の歴史文化の特徴

### (1)上ノ国町の歴史

上ノ国町では、旧石器時代から縄文時代、続縄文時代、擦文時代、中世に至るまでの多様な遺跡が発見されており、約2万年前から連綿と人々がこの地に居住していたことが確認されています。また、近世・近代の歴史を今に伝える文化財が多数残されており、各時代の歴史を一貫して辿ることが可能であり、通史的な視点から上ノ国町の歩みを理解することができます。

中でも、上ノ国町の中世史はアイヌと和人が共生した歴史を有し、全国的に見ても特徴的であることから注目すべき重要な歴史的資産と捉えています。

また、現在においても勝山館跡でコシャミン慰霊祭が執り行われるなど、アイヌと和人の文化交流が現在進行形で行われています。

### (2)アイヌ文化を形成した先人たちの活動が理解できる

アイヌ文化は、北海道を中心に東北地方北部、サハリン及び千島列島を含む地域で、鎌倉時代に相当する13世紀頃に形成されたことが考古学の成果によって指摘されています。

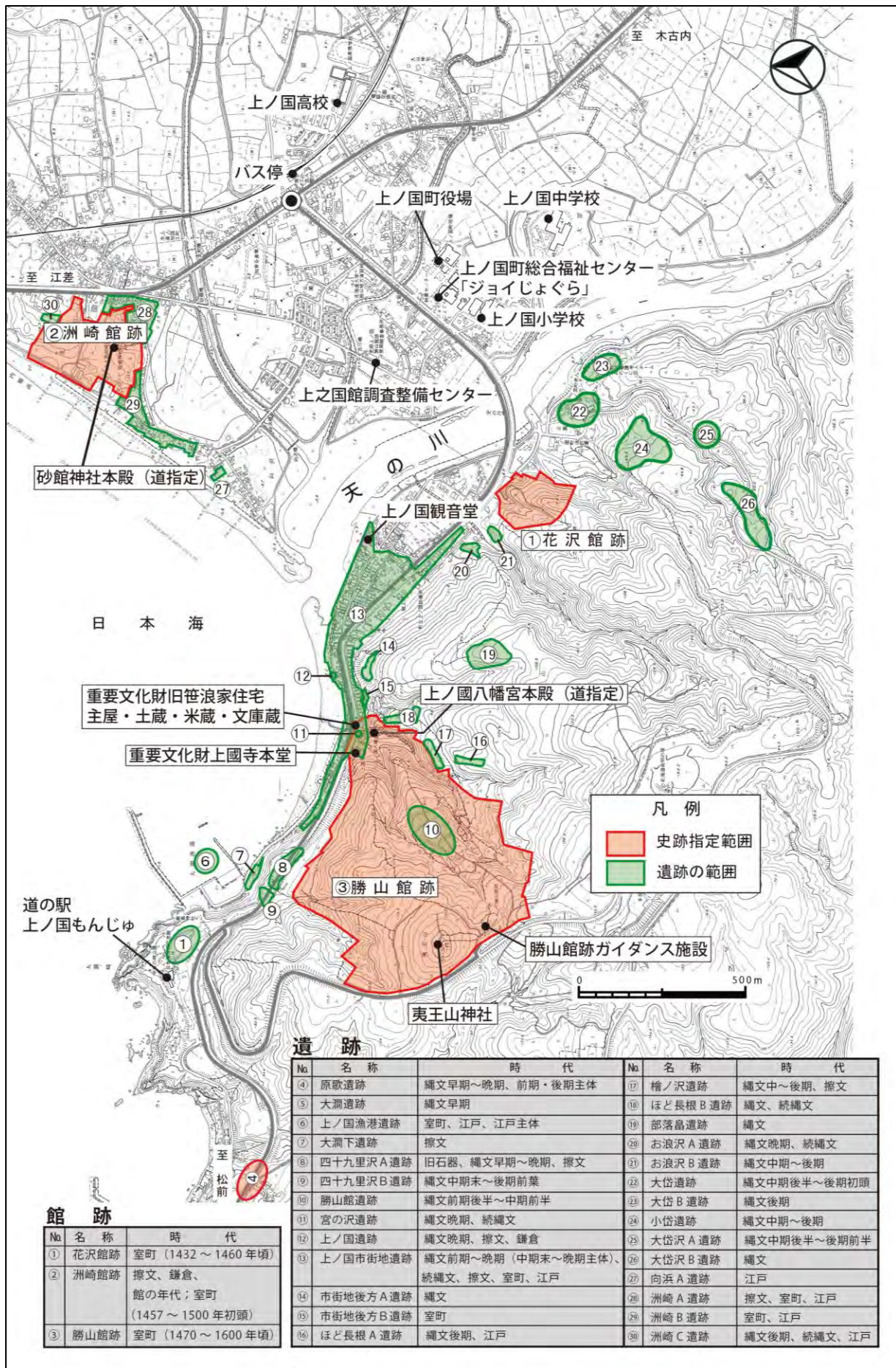
また、アイヌ文化は突如としてこの時期に登場したものではなく、鎌倉時代以前の人々の活動を基盤に、オホーツク文化や和人との交易・交流が積み重なって成立したものです。

そのため、約2万年前から連綿とした人々の活動の歴史を有する上ノ国町は、先住民族であるアイヌの活動が地域に点在する文化財で確認することができ、アイヌ文化を形成した先人たちの足跡を今に伝える貴重な歴史文化を有しています。

### (3)上ノ国町でしか知ることのできない中世史

史跡上之国館跡である「花沢館跡」、「洲崎館跡」、「勝山館跡」は、空堀・土塁・曲輪・切岸など、防御遺構が明瞭に残存し、北海道の室町時代における和人の足跡を知る上で非常に重要な史跡で、昭和52年度(1977)に花沢館、勝山館、平成17年度(2005)には洲崎館を含めた三館が、『史跡上之国館跡』として史跡指定されています。

さらに、史跡指定後の発掘調査により発見された遺物の特徴などより、「和人による防御のための山城」といった機能だけではなく、「アイヌと和人が共生した山城」「信仰や、鍛冶鑄造などの生産活動、喫茶、漁労など暮らしと営みの場、アジア圏も含めた交易拠点」として機能していたことがわかり、他地域では見られない多様な活動を行っていた館としての特性を有しています。



史跡上之国館跡と周辺の文化財 位置図

▶▶上之国館跡が、防御だけではない『信仰』や『喫茶』などのさまざまな活動が行われた多様な機能を持った館であった

信仰や喫茶などの活動と交流の場

三館は山城という遺跡の性格から、軍事的な利用が主に想定されていましたが、懸仏・銅鏡・香炉、茶道具などが出土し、館内での信仰・喫茶などの営みが明らかになりました。

特に勝山館跡では、多様な密教法具や念仏鉢などの宗教関連遺物が出土し、館内での仏教儀礼の活動が認識されました。館の中心となる曲輪の「主郭」には、200棟以上の建物跡、鍛冶鑄造など生産活動の痕跡が残り、日常的に生活する空間であると同時に都市機能を持つ暮らしの場であったこと。また、出土品からはアジア圏を含む交易拠点であったことが明らかになっています。

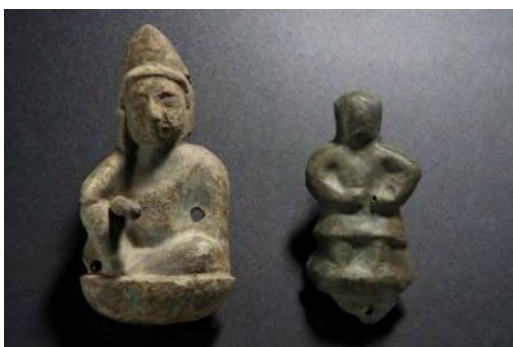
勝山館跡の出土品は、北海道南部における当時の生活や本州と北海道の交易・物資の流通、アイヌと和人の関係等を解明する上で欠かせない資料と評価され、平成20年(2008)7月10日に921点が、重要文化財「北海道上之国勝山館跡出土品」に指定されています。



仏具(金剛鈴・鉦鼓・錫杖・鑲他)  
勝山館跡出土品



瀬戸・美濃(碗・皿・すり鉢・花瓶)  
勝山館跡出土品



懸仏(如意輪観音・毘沙門天)  
左:花沢館跡出土品/右:洲崎館跡出土品



茶道具(天目茶碗・茶臼・茶入)  
花沢館跡出土品

## ▶▶上之国館跡で、アイヌと和人が共生していた

### アイヌと和人が共生した館

文献史料から三館は和人の活動拠点と認識されてきましたが、近年の発掘調査により花沢館跡や洲崎館跡で骨角器やガラス玉が出土し、勝山館においては和人の墓と隣り合わせでアイヌの墓が確認されました。これらの事実は、館の内部においてもアイヌの活動が存在し、アイヌと和人が共に生活していた可能性を示しています。

特に勝山館跡の墓域では、異なる民族の墓が同一の区画内にありながら、それぞれの文化様式に則った葬送が行われているため、アイヌと和人が互いの文化を尊重し、共生していたことを物語る貴重な証拠と捉えることができます。



隣り合わせで発見されたアイヌと和人の墓



アイヌが使用した骨角器



アイヌ エムシ他  
勝山館跡出土品

## ▶▶日本中世史において欠かせない歴史を知ることができる

### 上ノ国町でしか知ることのできない中世の歴史を伝える

北海道の歴史は、長い間、明治に入って開拓されたという歴史観で語られてきました。しかしながら、北海道にも鎌倉・室町・安土桃山時代の中世に、アイヌと和人の紛争・共生の他、本州やアジアとの交易により、燦然(さんぜん)と輝く繁栄の歴史があったことを、上ノ国町では知ることができます。



| 年代   | 時代区分 | 上之国館成立時期  | 北海道時代区分       |
|------|------|---|---------------|
| 1300 | 鎌倉   |   | 中世/<br>アイヌ文化期 |
| 1400 | 室町   | 花沢館(頼崎季繁)<br>★コシャマインの戦い<br>洲崎館(武田信広)<br>勝山館(武田信広) |               |
| 1500 | 安土桃山 |   |               |
| 1600 | 江戸   |   | 近世/<br>アイヌ文   |

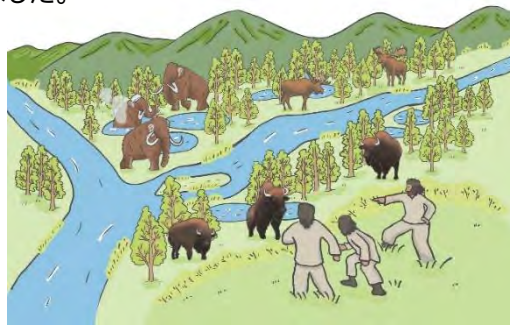
## ▶▶現代まで連綿と続く人々の歴史を辿ることができる

### 旧石器時代から近世まで多様な遺跡や文化財が現存

上ノ国町では、旧石器時代から縄文時代、続縄文時代、擦文時代、中世に至るまでの多様な遺跡が発見されており、約2万年前から先人たちがこの地に居住していたことが確認されています。また、近世・近代の歴史を今に伝える文化財が多数残されており、現代まで連綿と続く歴史を一貫して辿ることが可能です。そのため、北海道内では非常に稀有な地域であり、通史的な視点から人々の歩みを理解することができます。

#### ① 旧石器時代

- ・ 今から約2万年前、地球全体が今より寒かった時代。大陸や本州から人びとが北海道にやってきて、住み始めるようになりました。そこに住む動物たちも今とは大きく違っており、マンモスやバイソン、ヘラジカのような寒さに強い大型獣が生息していました。
- ・ それらの動物の狩りには、動物の骨や角の先に石器を埋め込んだ手作りの植刃槍という道具を使っていました。



#### ② 縄文時代

- ・ 暖かくなって、食料が豊富になると、家を立ててムラを作り、一か所にどまるようになりました。土器を使って食材を煮ることで、色々な植物を美味しく食べられるようになりました。弓矢を使うことで遠くの獲物を狩れるようになり、鉾を使うことで暴れる獲物を獲りやすくなりました。



大安在B式土器



上ノ国式土器

#### ③ 続縄文時代

- ・ 本州では稲作がはじまりますが、北海道では食料が十分だったので、陸での狩り、海や川での漁、植物採集で暮らしが可能でした。特に、この時期サケを沢山利用するようになりました。すみかを転々とするキャンプ生活をしながら、北海道に独特な動物の毛皮や石器を本州へ持っていき、鉄や玉と交換したりして、新たな文化も取り入れていました。ただし、上ノ国ではこの時期の人の痕跡は多くありません。



恵山式土器  
北村遺跡出土品



後北式土器  
上ノ国市街地遺跡出土品

#### ④ 擦文時代

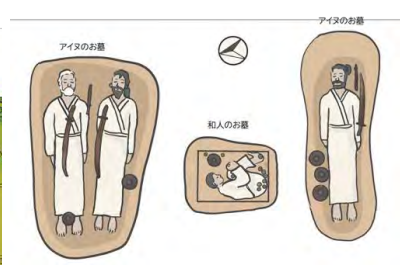
- 上ノ国町では海岸付近や海岸から山に向かう斜面に、いくつかこの時代の遺跡はありますが、大きな遺跡はみつかっていないため、一時的なキャンプ地だった可能性があります。竪穴住居には、擦文時代の始め頃に北海道に伝わってきたカマドがつくられるようになりました。



擦文土器  
ワシリ遺跡出土品

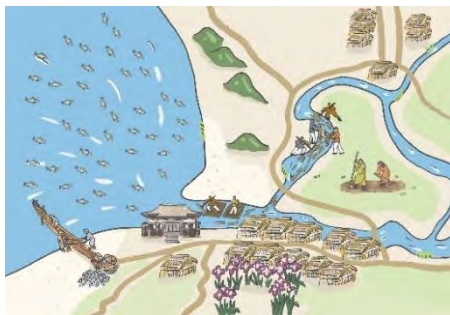
#### ⑤ 中世

- 600年程前、本州から渡ってきた和人は函館から上ノ国あたりの河口や港の近くに、「館」をつくりました。
- コシヤミンの戦いの後、勝山館を中心にして上ノ国は北海道の日本海側で最もひらけた、豊かで、賑やかなまちでした。勝山館では、仏教を信仰する和人のお墓と、アイヌのお墓が同じ墓地の中で隣り合っていました。



#### ⑥ 近世前期

- 江戸時代の上ノ国では林業や漁業が盛んでした。林業が盛んだったのは、天の川から厚沢部川にかけて美しいヒノキ山が広がっていたからです。漁業は、特にニシン漁が盛んでした。ニシンから白子や数の子をとったり、ニシンの身を乾燥させた製品もつくられたりしました。



1666年頃に、仏師の円空が上ノ国に来て、6体の仏像をつくった



イクパスイ(宮ノ沢右岸出土品)

和入地と呼ばれた上ノ国だが、中世に引き続き、アイヌが和人と混住していたことがイクパスイの発見から分かった。

#### ⑦ 近世後期

- 江戸時代後期、江差湊が繁栄するなかで、江差街道や木野子村街道などを行きかう人も増えました。この頃、和入地全体の人口が増えますが、上ノ国は其中でも多く、約200戸ありました。上ノ国の村役人たちが幕末に書いた古文書も多く残っています。



1789年に、旅行家の菅江真澄が松前からせたなの太田権現を見に行く際に、上ノ国を訪れて歌を詠んだ。



越前系瓦(上ノ国八幡宮拝殿)

越前方面から運んできた赤瓦や燻し瓦等が洲崎館跡から発見、この頃に瓦葺の建物が造られ始めた。町内で瓦を焼いた瓦場遺跡も確認されている。

### (3)重要文化財「北海道上之國勝山館跡出土品」

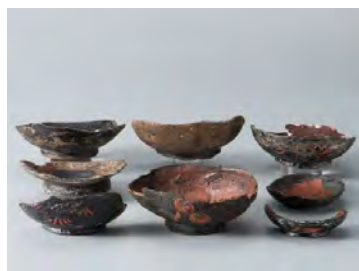
#### 【指定理由】

16世紀の蠣崎氏の居館跡とされる遺跡からの出土品一括。出土品は、本州各地産陶磁器や朝鮮・中国からの輸入陶磁器、和鏡や装身具等の金属製品、漆製品、さらに骨角製の漁労具など多彩な内容で構成される。北海道南部における当時の生活や、本州と北海道の交易・物資の流通、アイヌの人々との関係等を解明するうえで欠かせない資料である。(室町時代～安土桃山時代)

| 属性     | 点数   |
|--------|------|
| 土器・土製品 | 313点 |
| ガラス製品  | 17点  |
| 木製品    | 129点 |
| 漆器     | 10点  |
| 石製品    | 46点  |
| 金属製品   | 338点 |
| 骨角製品   | 65点  |
| 繊維製品   | 3点   |
| 附 炭化米  |      |
| 総計     | 921点 |

#### 【現状と課題】

平成20年(2008)7月10日に指定された重要文化財北海道上之國勝山館跡出土品(921点)は、町内に展示可能な施設がないため、指定以来上ノ国町役場庁舎2階に收藏されたまま公開活用ができていません。また、指定品にアイヌの副葬品が含まれるため、アイヌの尊厳に配慮したアイヌ御遺骨と一括した保管が求められています。



漆器



シロシ入り陶磁器



朝鮮産陶磁器



仏具



和鏡



鍛冶・鑄造道具



人形・経文石・陽物・数珠玉



銅銭



アイヌ太刀・小刀・ニンカリ・鏃



骨角器



ガラス玉

## 5 他都市の関連施設(アイヌ関連施設・中世関連施設)

### (1)道内のアイヌ文化関連施設

- アイヌ文化には、地域ごとに特性があり、アイヌ文化関連資源にも様々な種類・年代の違いが見られます。
- 文化財ミュージアムでは、アイヌ文化を知る入口であるウポポイをはじめ、他地域のアイヌ文化関連施設と連携し、アイヌ文化のより深い理解を促していくとともに、上ノ国を起点に、先住民(アイヌ)と和人ととの共生の歴史を全国・全世界へ発信していく役割を有しています。
- また、昨今における欧米人のアイヌ文化への興味関心、アイヌ文化施設への来館ニーズを踏まえ、この層を受け入れるための体制を築き、新たな仕事を生み出していくことで、地域の活性化につなげていく役割も有しています。



#### 【民族共生象徴空間(愛称「ウポポイ」)】

- ・場所:白老町ポロト湖畔
- ・開業:令和2(2020)年7月12日
- ・特徴:アイヌ文化の振興・復興・創造の拠点。展示・調査研究機能、文化伝承・人材育成機能、体験交流機能、情報発信機能、公園機能、精神文化尊重機能を有している。



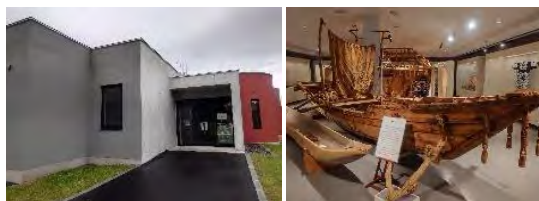
#### 【平取町立二風谷アイヌ文化博物館】

- ・場所:平取町二風谷
- ・開業:平成4(1992)年
- ・特徴:豊富な生活用具や工芸品、祭具の展示により、沙流川流域のアイヌ文化を紹介。周辺にはチセが建ち並び、中ではアイヌ工芸家が木彫りや刺繍の作業を行い、来訪者との交流の場にもなっている。



### 【新ひだか町アイヌ文化交流センター】

- ・場所:新ひだか町静内
- ・開業:令和7(2025)年5月1日
- ・特徴:シャクシャイン記念館、アイヌ民族資料館、多機能型生活館が一体となった施設。静内地方のアイヌ民族が日常生活に用いた民具や工芸品、地域特有の狩猟文化を示す外洋船「イタオマチプ」の復元を展示。



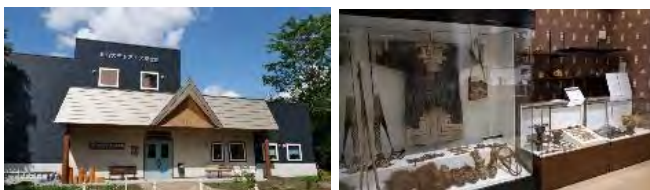
### 【屈斜路コタンアイヌ民族資料館】

- ・場所:弟子屈町屈斜路湖畔
- ・開業:昭和58(1982)年6月6日
- ・特徴:屈斜路湖畔や道東地方のアイヌ文化や生活を伝える資料館。常設展示ではアイヌ民族の生活や歴史に関連した約450点の収蔵品を展示している。建築は釧路市出身の建築家毛綱毅曠氏の設計。



### 【川村カ子トアイヌ記念館(リニューアル)】

- ・場所:旭川市北門町
- ・開業:令和5(2023)年7月
- ・特徴:日本最古のアイヌ個人資料館で、アイヌ民族の指導者・文化伝承者であった川村カ子トが1926年に設立。多岐にわたる資料展示の他、伝統舞踊や楽器演奏、アイヌ料理講習等の体験プログラムも行っている。



### 【厚真町軽舞遺跡調査整理事務所】

- ・場所:厚真町軽舞
- ・開業:平成24(2012)年
- ・特徴:厚真町では約700年前のアイヌ文化の墓が発見されており、当施設では北海道に和入文化が入る以前のアイヌ文化、アイヌ民族の歴史を語る資料を保存・展示している。



### 【その他のアイヌ関連施設】

- ・萱野茂二風谷アイヌ資料館(平取町二風谷)
- ・札幌市アイヌ文化交流センター(札幌市南区小金湯)
- ・登別市郷土資料館(登別市片倉町) など

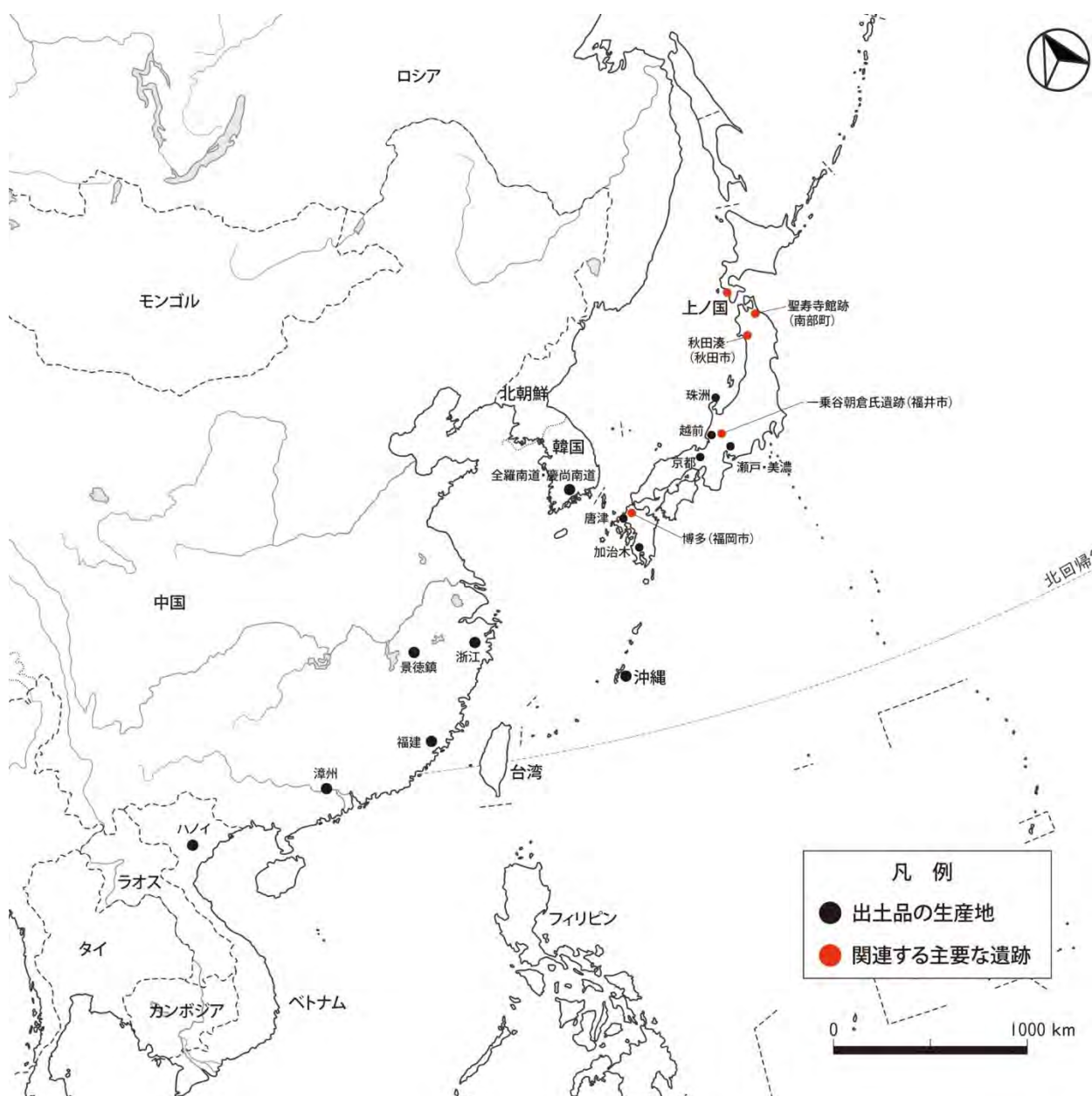
## (2)国内外の中世関連施設

### 【国内】

本州・九州・琉球で生産された陶磁器・金属製品・木製品が多くみられます。特に、越前地域を除く日本海側では越前焼(特にすり鉢)が上ノ国町で最も多く出土し、勝山館跡で確認されています。また、中世にほとんど流通しない笏谷石製の茶臼が出土するなど、「越前」の製品を多く受容する傾向があります。

### 【国外】

陶磁器では、中国・朝鮮の貿易陶磁器 61.5%に対して、国産陶磁器 38.5%と国外産を多く使用しています。古銭では、ベトナム・琉球産が確認され、東アジアにおける交易圏のうち、北方日本海最大の拠点でした。また、人骨も出土するなど、モノを介した人の交流も盛んでした。



## 6 上ノ国町の文化財等を取りまく現状・課題

### (1)文化財の保存・公開活用が不十分

#### ▶▶重要文化財の保存公開と適切なアイヌ御遺骨の保管及び情報発信の整備が必要

- 上之国館調査整備センター、重要文化財旧笹浪家住宅、勝山館跡ガイダンス施設の3つが所在しています。
- 公開活用は、勝山館跡ガイダンス施設、重要文化財旧笹浪家住宅附属米蔵・文庫蔵の2施設で実施していますが、勝山館跡に特化した情報提供施設となっています。
- 平成20年に指定された「重要文化財北海道上之国勝山館跡出土品(921点)」は、展示可能な施設が無い場合、上ノ国町役場庁舎2階に収蔵されたまま公開活用できていません。
- アイヌ御遺骨、その他副葬品を含む出土品、史跡整備や発掘調査の図面、写真等は、昭和26年築の上之国館調査整備センター(木造校舎)にて保管していますが、空調設備が備わっていないことに加え、建物が木造であることから防災上、適切な保存管理ができていない状況となっています。

#### <上ノ国町内の文化財保存活用施設の現状・課題>

開設から20年が経過し、  
・近年の調査成果や多言語化に未対応  
・外国人や子どもの理解が難しい

冬季間閉鎖のため、通年での  
情報発信が出来ていない

|  | 町内の文化財保存活用施設施設名        | 開館期間   | 役割   | 保管・保存  | 活用  |
|--|------------------------|--|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・空調設備が整っていない</li> <li>・木造のため火災の懸念</li> <li>・築70年経過による老朽化</li> </ul> | 上之国館調査整備センター           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成8年度開設</li> <li>・平日</li> <li>・土日祝日休</li> </ul>                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・発掘調査の整理作業</li> <li>・出土品の保管</li> <li>・調査研究</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・アイヌ資料及び御遺骨の保管</li> <li>・指定品以外の文化財の保管</li> <li>・保存処理</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・民俗資料の展示</li> <li>・史跡出土品の展示</li> <li>・町内学校等の利用</li> </ul>                  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・勝山館に特化した情報提供</li> <li>・三館の全体像や繋がりについての発信が乏しい</li> </ul>            | 勝山館跡ガイダンス施設(史跡指定地内)    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成17年度開設</li> <li>・4月第4土曜日～11月第2日曜日</li> <li>・冬期間閉鎖</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・南側エントランスの案内</li> <li>・勝山館跡の案内周知</li> </ul>           | —  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・勝山館跡の遺構レプリカ展示</li> <li>・勝山館跡の案内周知</li> <li>・出土品展示</li> </ul>              |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・勝山館跡主郭へ誘導する動機付けが乏しい</li> </ul>                                     | 旧笹浪家住宅附属米蔵・文庫蔵(史跡指定地内) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成16年度開設</li> <li>・4月第4土曜日～11月第2日曜日</li> <li>・冬期間閉鎖</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・北側エントランスの案内</li> <li>・中世末～近世の歴史文化の案内周知</li> </ul>    | —  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺文化財の案内周知</li> <li>・中世末～近世の史跡関連文化財の展示</li> <li>・近世初頭のアイヌ資料の展示</li> </ul> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>重要文化財が公開活用されていない</li> </ul>   | 上ノ国町役場庁舎2階             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・重要文化財北海道上之国勝山館跡出土品(921点)の保管(未活用・未公開)</li> </ul>                |  |  |   |

## (2) 歴史文化をまちづくりやアイデンティティ形成に活かしきれていない

▶▶上ノ国町独自の歴史文化の位置づけのわかりやすい整理が必要

▶▶町内外に広く発信し、教育や観光・アイデンティティ形成への活用が必要

- 史跡上之国館跡を中心とした歴史文化(歴文構想における「はじまりの地“神の国”」)は、日本中世史においても極めて貴重でありながら、これらを町内外に広く発信して教育や観光に活用する拠点が無く、歴史文化をまちづくりに活かしきれていません。
- 三館の歴史に加え、アイヌと和人の地域独自の関わり・共生してきたという歴史文化は、アイヌ文化や北海道史を正しく理解する上で極めて貴重な史実でありながら、その位置づけの整理や発信が十分ではなく、上ノ国独自の地域のアイデンティティとして活かしきれていません。
- 上ノ国町は、旧石器時代から現代まで連綿と続く歴史に関する様々な出土品・遺構・建造物・資料等が多数存在しており、それらは現在も調査が続けられ、発掘・保存されているものの、これらの通史をわかりやすく町民に伝え、まちへの愛着心醸成につなげていく媒体として活かしきれていません。

## (3) 文化財の継承危機

▶▶町民みんなで歴史文化を守り活かしていく気運の醸成が必要

- 上ノ国町では、これまで行政が主導して指定文化財を中心とした文化財の保存活用を推進してきましたが、近年の急激な都市部への人口流出・少子高齢化による担い手不足で、町内に所在する指定・未指定文化財の継承の危機に瀕しており、地域の人たちとともに、町全体で協力しながら文化財の保存活用に取り組んでいく必要があります。
- 町民が上ノ国町の歴史文化に愛着を持ち、地域資源として文化財等を楽しみながら守り活かしていけるような気運の醸成が求められています。

## 第2章 文化財ミュージアムの事業について

### 1 文化財ミュージアムの「使命」と「めざす姿」

#### (1)使命

**連綿と続く上ノ国の人々の活動を通じて、交流・争い・共生の歴史を紹介し、地域への誇りを育み、未来へ継承する**

上ノ国では、約2万年前の旧石器時代に先人たちが生活を始めてから、途絶えることなく現代に至るまで人々の活動の痕跡が確認されています。文化財ミュージアムでは、アイヌと和人の共生の歴史だけでなく、それ以前における人々の活動を紹介し、現代に至るアイヌと和人の交流・争い・共生の歴史のプロセスを明示します。そして、どのような人々が関わって現在の上ノ国が形成されているのかを文化財や歴史・文化的資源を町民の暮らしや活動と結びつけながら地域への愛着や誇りを育み、未来へ継承することを使命とします。

#### (2)めざす姿

**アイヌと和人の文化が多様に交わり、つながる、  
「中世都市」上ノ国**

上ノ国における中世のアイヌと和人の暮らしは、仕事・信仰・共同体が重なり合い、今よりももっと「顔の見える」日常が、人とのつながりの中で育まれていました。

その当時の上ノ国では日本海を行き交う船が立ち寄る港をもち、館を中心に人・もの・情報が集まる交易の拠点として発展しました。館には、生活に必要な物資だけでなく、技術や文化、信仰、異なる地域の知恵がもたらされ、この地の暮らしや町のかたちを形づくっていきました。

上ノ国の人々は、館を通じて外の世界とつながりながら、日常生活の他、信仰や交易活動を行っていました。その遺跡の形態は、まるで「中世都市」といった様相を示しており、その中でアイヌと和人が共生し、それぞれが様々な役割を担い、助け合い、支え合う共同体を育てていたのです。

「中世都市」は遠い昔のことではなく、今の地域コミュニティの原型であり、自然と折り合い、信仰に寄り添い、共同体で生き抜く、魅力的で誰もが幸せに暮らす姿を今に伝えてくれるものです。勝山館跡で30年以上受け継がれてきたコシャマイン慰霊祭の活動は、まさに未来志向の共生を祈る場であり、現在を生きる私たちに多様な価値観を尊重する大切さを気づかせてくれます。

文化財ミュージアムは、過去を展示するだけの場所ではなく、そんな「中世都市」を現代版としてひもとき、「つながる暮らし」を未来へ開き、上ノ国の今とこれからを映し出す活動そのものを、めざす姿とします。

## 2 文化財ミュージアムの活動フィールド

文化財ミュージアムの活動は、文化財ミュージアムの「拠点施設」を中心に、町内に多数点在する歴史文化資源をリアルに見る・体験することのできる場を含めたまち全体での展開を想定します。

また、文化財ミュージアムの活動は、完成形を固定するものではなく、町民が主役になりながら、つくり続け、更新し続けることで、より面白く魅力的な活動へと発展していくものです。

### 歴史文化基本構想やデジタルアーカイブとの連携

上ノ国町には、北海道中世史を体感できる「史跡上之国館跡」と関連する文化財群があるほか、旧石器時代から連綿と続く、この土地に生きた人々の知恵や暮らしの歴史を知り・体感できる多くの歴史・文化的資源が点在しています。

平成 29 年度に策定した上ノ国町歴史文化基本構想では、これらの資源を地域の人たちが再認識し、継承するとともに、教育・産業・観光の分野でも活用しながら、魅力あるまちづくりを目指していくことを掲げ、「マイ文化財」を抽出し、上ノ国町の歴史文化を物語る3つの「関連文化財群」としてまとめています。また、「上ノ国町デジタルアーカイブ かみのくにまるっこまんま!!デジタルミュージアム」を立ち上げ、これらの資源のアーカイブ化や発信を web 上で行っています。

これらの歴史文化資源を連携させ、デジタルアーカイブも活用しながら、層の厚い上ノ国の歴史文化を深く知り体感できるように、巡って楽しい文化財ネットワークを構築します。



|              |             |                                    |
|--------------|-------------|------------------------------------|
| 天の川が育む“風の国”  | 天の川河口周辺地区   | 天の川河口部や道の駅もんじゅ周辺の地形と伝説が含まれる地区。     |
|              | 宮越・早瀬地区     | 現在でも地元で採れる農産物を使った郷土料理を作る地区。        |
|              | 湯ノ岱・七ツ岳地区   | 温泉を拠点とし、アユ・山菜や、秀峰七ツ岳、紅葉などの景観が残る地区。 |
| はじまりの地“神の国”  | 史跡上之国館跡周辺地区 | 中世のアイヌと和人の文化が残る史跡上之国館跡周辺を象徴する地区。   |
| せんずけの海“渡りの国” | 木ノ子・汐吹地区    | 海水浴した場所やゴジラエビの水揚げや郷土料理のつぼこ汁が残る地区。  |
|              | 石崎地区        | 石崎漁港トンネルや中外鉱山などの近代化遺産と、石崎奴が残る地区。   |
|              | 小砂子地区       | ホッケ干しの風景やけんちん汁などの漁村文化が今なお残る地区。     |

### 3 文化財ミュージアムの基本姿勢

上ノ国町では、文化財ミュージアムのあり方として、以下の5点を基本姿勢とします。

- 1 上ノ国に関わる全ての人々の記憶・技・想いをつなぎ、建物の中に資料を集めて展示するだけでなく、地域全体を屋根のない博物館とみなす
- 2 アイヌの副葬品を含む重要文化財やアイヌ御遺骨が勝山館を拠点に活動したアイヌ若しくはアイヌの所持品であることから、アイヌ文化の普及や尊厳の回復に寄与するため、勝山館跡内で重要文化財の保管・展示、アイヌ御遺骨の安置を行う
- 3 町民自らが、地域の生活・自然・文化・産業にかかわる有形・無形の資源を、調査研究し、現地であるがままに、あるいはより良い状態に保全・保存しながら活動する
- 4 これらの活動を、多くの人々が共有しながら維持管理していくための空間・施設として、拠点施設と重要文化財の保管展示・御遺骨安置施設、各文化財保存活用施設を設定する

**拠点施設:**地域の歴史遺産等を概観できる情報展示機能を持ち、ここを拠点に地域の研究・調査・学習を行う

**重要文化財の保管展示・御遺骨安置施設:**

重要文化財を良好な状態で確実に将来へ継承する環境、アイヌ御遺骨を静穏で尊厳ある形で安置する環境を持つ

**各文化財保存活用施設:**地域に残る歴史、文化、産業、自然資源を体感できる

- 5 各文化財保存活用施設には、インタープリター※となる「人(町民学芸員・解説者、実演者、所有者など)」が居ることを基本とする

※地域の自然・歴史・文化の意味を分かりやすく伝える人

## 4 文化財ミュージアムの活動イメージ

### 活動イメージ その1:町民が集まり、日常的な暮らしの中で歴史文化を身近に感じる

- 拠点施設や町内の文化財施設などに町民がふらっと集まり談話や交流が生まれ、そこに行くと誰かに会える、何かやっている、子どもから高齢者までが自然に混ざり触れ合うような日常がまち全体に広がります。
- 町民も来訪者も、かつての暮らしや遊び・食・技術・行事をテーマとした体験など、歴史文化を身近に楽しむことができます。

### 活動イメージ その2:歴史文化の保存や活用の活動に町民が能動的に関わっている

～小さな関わり、大きな関わり、創造的な関わりへ

- 町民とともに、上ノ国町の資源を発見し、学び・楽しみ、磨き上げ、上ノ国町の歴史文化を身近な生活の中で感じながら、観光・産業にも活かしていくことで、豊かな暮らしの実現につなげます。  
ex.
  - ・文化財を題材にした小さな展示や掲示、写真・思い出・道具などの持ち寄り展示
  - ・町民による語り部、解説、拠点施設や各文化財保存活用施設の運営
  - ・歴史文化の調査研究やアーカイブ化など学芸員の取組みに町民も参画
  - ・文化財・歴史・暮らしの知恵などを活かした商品や観光コンテンツの開発などの新たな試み

### 活動イメージ その3:アイヌと和人の歴史文化「共生・多様性」の世界観を学び、世界に発信

- 上ノ国町におけるアイヌと和人の地域独自の関わり・共生の歴史文化は、アイヌ文化や北海道史を正しく理解する上で極めて貴重な史実です。
- 1つの館(中世都市)の中でアイヌと和人が共生して暮らしていた歴史文化を通して丁寧に発信し、現代社会にも置き換えながら、「共生・多様性」の世界観を学び、世界に発信します。

### 活動イメージ その4:国内外からの「人・もの・情報」が行き交う交易(=交流)の促進

- 上ノ国町では、恵まれた自然環境を生かしながら、他地域との交易を通して発展してきました。特に中世においては、国内・国外との活発な交易により大きく発展してきた歴史を有します。
- 歴史文化を時間の止まった過去のものとして見せるだけではなく、「人・もの・情報」が行き交い、交流し、動的に深化しながら現在に継承されていることを発信します。
- 道内各地のアイヌ関連施設や中世に交易を行っていた地域などとの連携も深め、歴史文化の重層的な研究や発信が広がります。

## 5 文化財ミュージアムの事業展開

### (1) 事業展開の方向性

文化財ミュージアムの「使命」と「めざす姿」を実現するためには、「収集・保管、調査研究、展示」といった、ミュージアム活動の基盤となる事業を着実に展開することに加え、誰もが歴史文化を気軽に親しみ、楽しむことができるよう町民の日常生活の延長線上で、町民 1 人ひとりの興味・関心ごとから気軽にアクセスできるような事業展開の工夫が必要です。

そして、様々なヒト・コト・モノに触れ合い新たな気づきを得て、楽しみながら自分ごととして携わることのできる活動を生んでいくこと。さらに、好奇心や探究心が高まり、いろいろな人との共創が生まれ、歴史文化を通じた人のつながりや地域社会の担い手が育まれるといった好循環を生むこと。そうすることで、町民が主役となり、町民が作り・関わり続ける文化財ミュージアムの実現につながる事業展開を目指します。

### (2) 想定する展開事業

#### ① 人をつなぎ・育て・交流創出事業

- インナープロモーション、インターナルマーケティングによる、歴史文化を楽しみ、文化財ミュージアムをつくり、運営して発信する担い手の発掘
- 調査研究・保存作業への参加、語り部や解説員、体験プログラムの企画運営など、町民それぞれが興味のあること、得意なことで歴史文化の保存活用に関わる「町民学芸員制度(有料・無償活動)」や「神の国ファンクラブ(無償活動)」の創設
- 文化財などの「モノ」、町民、来訪者、学芸員などの「ヒト」、イベントなどの「コト」を介した様々な交流を創出
- 文化財ミュージアムの活動や収蔵品をヒントに、自分で自由に学んだり、創作できるような機会を創出

#### ② 歴史文化を活かした未来創出事業

- アイヌ資料の展示やアイヌ御遺骨の適切な保管を通じて、コシャマイン慰霊祭に関わるアイヌや地元住民が交流し、多様な文化を尊重し合う社会実現への貢献
- 町民等が持つ知見や技、アイデアを活用しながら多様な主体との共創を展開し、歴史文化の保存活用やまちの課題解決、観光・産業振興につながる活動促進

#### ③ 収集・保管、調査研究事業

- 地域独自の歴史文化資料を収集し、適切に収集・保管して次世代に継承する
- 出土品等の保存処理や専門的な調査研究

#### ④ ガイダンス・展示・情報発信事業

- 三館の本質的価値や魅力、三館のつながりを見せる総合的なガイダンス機能を強化
- 重要文化財を含む三館の遺物展示や史跡内のアイヌと和人の共生や自然環境との関わり、他地域との交易・信仰・生産・文化活動の様子を伝える展示

- 上ノ国の歴史文化を幅広い層にわかりやすく伝える情報発信

### ⑤ 学習・体験・普及促進事業

- 子ども達の学習支援や歴史文化体験プログラム提供
- 講座、ワークショップ、学芸員等による解説など学びの機会提供
- 学校教育や生涯学習との連携、研修や修学旅行等の受け入れ促進
- デジタルミュージアムの充実化

### ⑥ 文化財ミュージアム推進事業

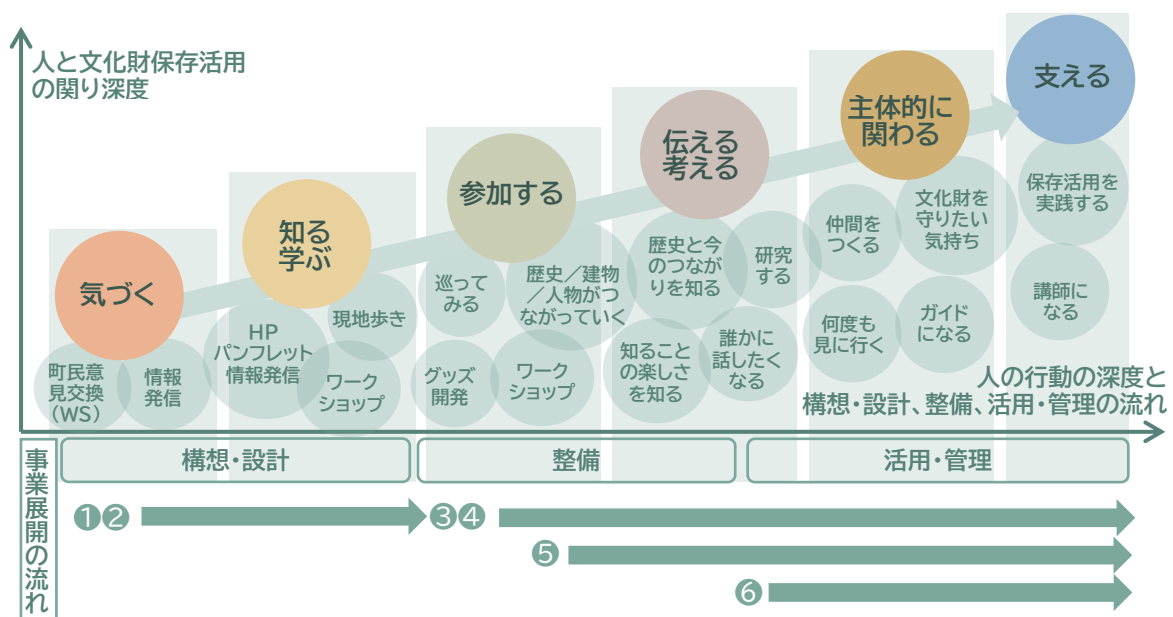
- 本文化財ミュージアム整備事業内では、「史跡上之国館跡周辺地区」を先導地区として位置づけ、文化財ミュージアムの具体検討を進める。合わせて、「天の川河口周辺地区」も関連エリアとして位置づけ検討を進める。
- 温泉施設・スキー場を有し、近年ではワイン醸造や宿泊・コワーキングスペース(様々な職業や背景を持つ人々が「共に働く」ための共有オフィス空間)も設置されている「湯ノ岱地区」についても検討を進める。
- その他の地域においても、今後、必要に応じて順次検討を進める。

#### 「史跡上之国館跡周辺地区」の考え方

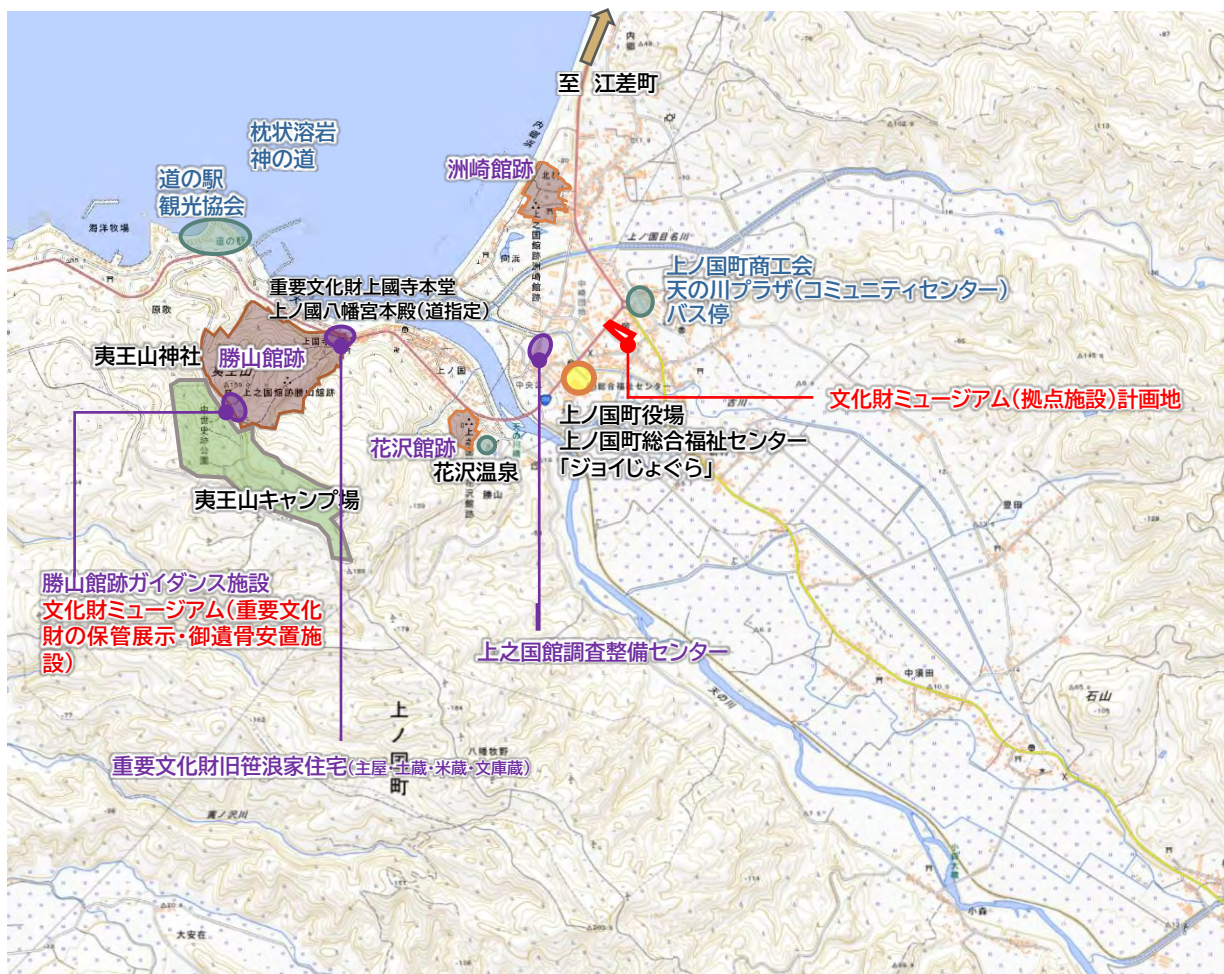
「史跡上之国館跡周辺地区」に、文化財ミュージアム(拠点施設、重要文化財の保管・アイヌ御遺骨安置施設)を整備し、拠点施設を起点に、勝山館跡ガイダンス施設、重要文化財旧笹浪家住宅、文化財保存活用施設との機能分担を明確にし、連携することで「アイヌと和人の歴史が体感できる国内唯一の中世城館群(中世都市)」を効果的に発信する。

拠点施設は、三館を有機的に結びつけ、総合的に保存活用および情報発信をする施設とする。また、文化財(マイ文化財)は本物を本来の場所で見せることを基本とする。

史跡の価値や上ノ国の歴史文化を広く発信し、後世に伝えていくために、周辺施設と連携し、拠点施設の構想・設計段階から、気づき、参加し、主体的に関わるなど、段階的な取組みを展開する。

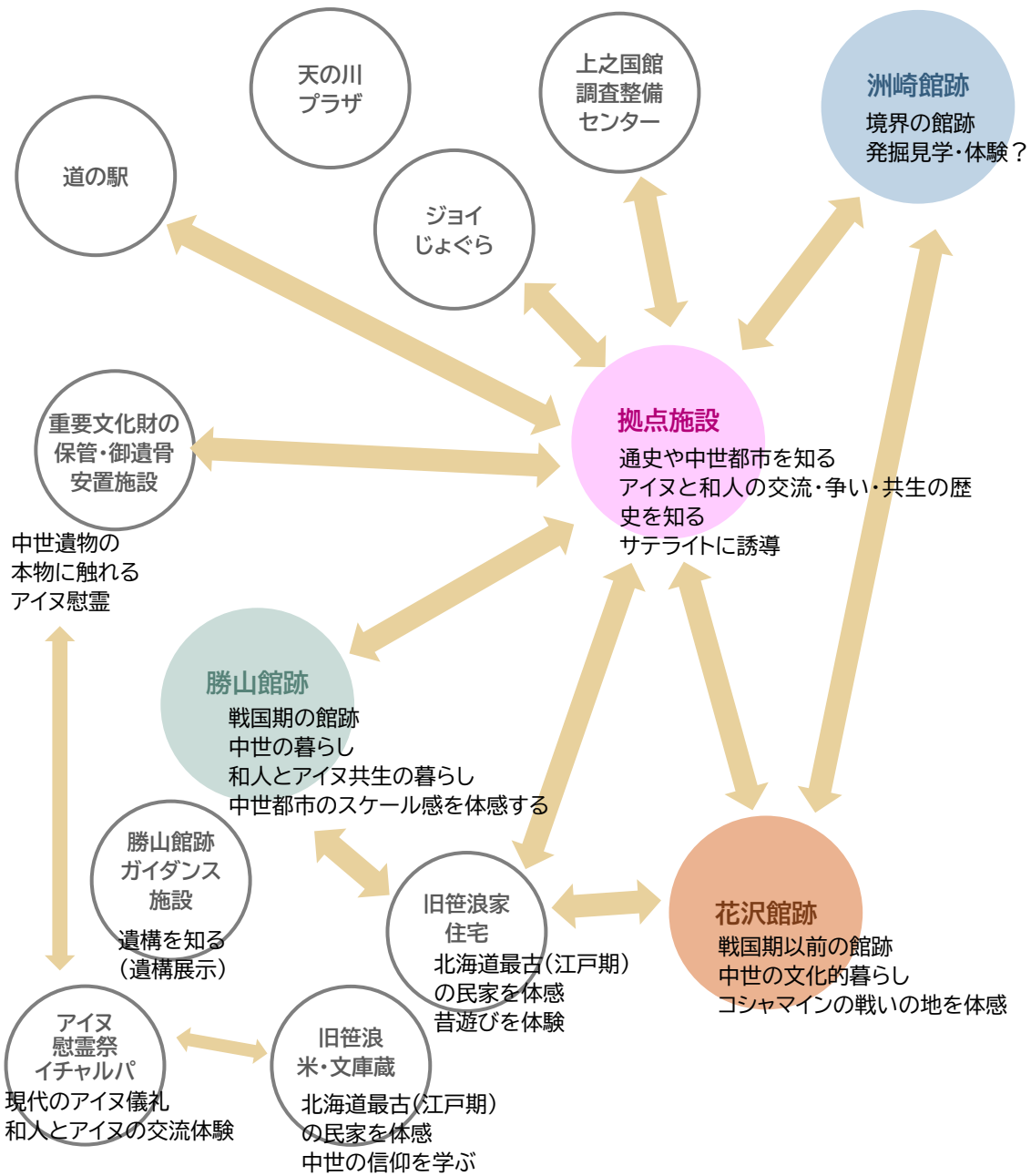


# ミュージアムを構成する諸要素



|        |                   |   |                         |                |                  |                 |
|--------|-------------------|---|-------------------------|----------------|------------------|-----------------|
| 歴<br>史 | ⑩アイヌと和人の歴史、夷王山墳墓群 | ⑪上ノ国八幡宮本殿 (道)                               | ⑫円空作 阿弥陀如来像 旧笹浪家住宅 (重文) | ⑬勝山館跡 ガイダンス施設  | ⑭円空作 十一面観音立像 (道) | ⑮円空作 観音座像 (町)   |
|        | ⑯上ノ国寺本堂 (重文)      | ⑰勝山館跡 (史跡)、北海道上ノ国勝山館跡出土品 (重文)、福山街道 (歴史の道百選) | ⑱夷王山、夷王山神社              | ⑲上ノ国館 調査整備センター | 景<br>観           | ⑳道の駅もんじゅから見える景色 |
|        | ㉑花沢館跡 (史跡)        | ㉒洲崎館跡 (史跡)                                  | ㉓砂館神社本殿 (道)             | ㉔武田信広          |                  | ㉕コシャマイン慰霊祭      |
|        |                   |   |                         | い<br>の<br>ち    | ま<br>つ<br>り      |                 |

文化財ミュージアム『史跡上之国館跡周辺地区』のストーリーイメージ  
 ～中世都市を体感！！中世から現代までつづくアイヌと和人の交流と共生(仮)



# 第3章 文化財ミュージアムの施設整備について

## 1 施設整備の考え方

### (1)施設整備方針

文化財ミュージアムは、現在、展示・公開できていない重要文化財の適切な保管および公開活用を可能とすること。また、第2章で整理した、アイヌと和人の共生の歴史や多様な活動を効果的・戦略的に推進していくことを可能とする施設として、既存施設や関連施設との連携・機能分担も考慮しながら、必要かつ過剰整備とならないよう配慮して整備を行うことを基本とします。

### (2)文化財ミュージアム施設に求められる役割と機能

#### <文化財ミュージアム施設の役割>

- 上ノ国町の歴史文化と町民をつなぐ(町民が歴史文化を身近に感じる入口)
- 上ノ国町の歴史文化への知見を深める
- 文化財を適切に保存し、継承する
- 歴史文化をテーマとした人・もの・情報の交流を活性化させる
- 歴史文化を核としたまちづくりを促進させる
- 歴史文化を媒体とした観光振興・産業振興を促進させる

#### <文化財ミュージアム施設の機能>

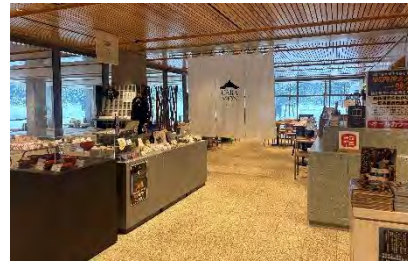


### (3)施設機能のイメージ

滞留(居場所)  
町民・来訪者の  
日常的な滞留の  
場(カフェ・遊び・  
フリースペース)



誰もが利用できるエントランスの  
フリースペース



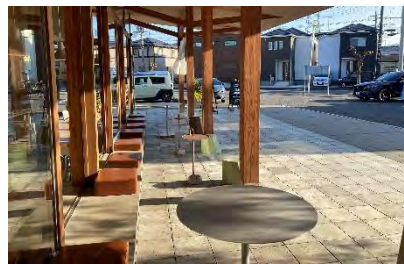
エントランスに開かれたカフェレス  
トラン



子どもが靴を脱いで遊べるフリー  
スペース



展示スペース横の小スペースを活用  
した遊びの空間



屋内外が繋がる縁側づくりで、町民等  
が立ち寄りやすい工夫

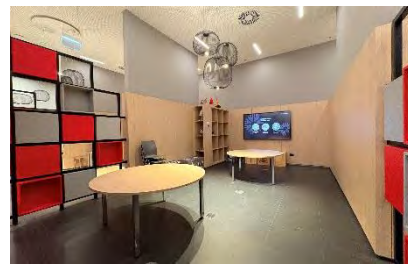


外部空間にも溜まれる空間をつくるこ  
とで賑わいが生まれる

交流・コミュニ  
ティ機能  
イベント等が可  
能な広場・フリー  
スペース等



可動式の椅子とスクリーンにもなる壁  
でセミナー等にも対応できる空間



少規模の団体利用に対応できる緩やか  
に囲まれた空間



大人数や小規模な団体の利用など様々  
な規模に対応できる空間



企画展やワークショップなどに活用で  
きる広々としたフリースペース

情報発信・ガイダンス機能  
町内情報発信や  
エコミュージアム  
等のガイダンス



まちの様々な情報を発信する空間と  
フリースペース



まちの歴史や文化・産業・自然など  
に関する資料に触れられる工夫

まちづくり・  
観光振興機能  
歴史文化を活用  
した観光促進



博物館の周辺だけでなく町全体を紹介  
する模型展示



展示品やまちに関する様々な分野の  
書籍を自由に閲覧できるスペース



印刷物だけでなく映像など視覚的に  
情報を発信する設備



展示に関する商品とともにまちの産品  
を発信・販売するアンテナショップ

展示・解説  
機能  
わかりやすい  
展示・企画展



映像解説で基本的な歴史を伝える導入  
部分



博物館と遺跡の位置関係を分かりやす  
く伝える大型パネル



フレキシブルに活用できる展示備品  
と空間



床面や壁面上部を活用したダイナミ  
ックで印象的な展示



遺跡の当時の姿を分かりやすく伝える  
模型



実寸模型と文化財である建築部材を組み  
合わせた分かりやすく規模を伝える展示

**体験機能**  
体験スペース・  
体験広場と  
プログラム



展示品に実際に触って肌で感じる事ができる仕掛け



子どもたちが靴を脱いで展示品に関する道具や遺構に触れ遊べるスペース



発掘調査の手順や道具など博物館の仕事について知り、体験できる工夫

**教育・学習機能**  
展示やワークシ  
ョップ等の学び  
の機会



学習や創作のヒントとなる見本展示及び実際に素材に触れられる仕掛け

**教育普及機能**  
講座、ワークシ  
ョップ、学芸員  
による解説、体験  
型学習などの  
開催



学芸員などによる博物館ツアーの実施

まちの歴史や展示品を題材にしたワークショップの実施



子ども達向けの歴史を題材にしたワークショップの実施



町民のまちへの愛着醸成を目指した歴史に関する講座や勉強会の実施

調査研究  
機能  
資料収集や学術  
研究を進める  
環境・設備



調査や研究を行う環境や設備と来館者からその様子が見える工夫



来観者から収蔵品が見える工夫



各地から集めた資料を保管・公開する書庫

文化財の保存  
と継承  
文化財を適切に  
保存し、未来に  
継承する環境・  
設備



文化財を適切に保管する収蔵設備



文化財を適切に保管・維持管理しながら、来館者に見せる工夫



文化財ごとの特徴に合った展示ケースを使用するなど適切な環境整備

## 2 文化財ミュージアム施設に求められる必要諸室

上ノ国町の文化財等を取りまく現状・課題の解決、文化財ミュージアムの「使命」と「めざす姿」を実現していくために必要となる諸室を以下に整理します。

想定諸室は、参考値であり、諸室の組み合わせ方やゾーニング、兼用の考え方により増減するもので、詳細検討を踏まえて精査していくことが必要です。

| 部門           | 想定機能  | 想定面積(m <sup>2</sup> ) |
|--------------|---|-----------------------|
| 導入部門         | エントランス・受付   | 100~150               |
|              | インフォメーション   |                       |
|              | ショップ(カフェは要検討)                                     |                       |
|              | フリースペース(休憩、交流、遊び場 etc)(オープンな展示スペースや体験スペースとの兼用も検討) |                       |
| 展示部門         | 史跡ガイダンス・導入展示スペース                                  | 60 前後                 |
|              | 展示室(文化財等(借用展示含む)の展示)                              | 200 前後                |
|              | 展示スペース(オープンな展示スペース)                               | 100~200               |
| 教育普及部門       | 体験スペース(導入展示との一体化も要検討)                             | 60 前後                 |
|              | 公開資料・図書室(フリースペースや調査・研究室との兼用を検討)                   |                       |
|              | 閲覧・学習室(フリースペース等の兼用を検討)                            |                       |
| 収蔵部門         | 重要文化財収蔵   | 50 前後                 |
|              | 指定文化財収蔵(文化財によっては、その他の施設での収蔵・展示)                   | 50 前後                 |
|              | その他収蔵(基本的に他施設で対応、文化財の価値・性質によっては指定文<br>材収蔵室にて収蔵)   | —                     |
|              | アイヌ御遺骨安置室   | 20 前後                 |
|              | サービスヤード(屋外)                                       | —                     |
|              | 荷解室   | 20~40                 |
| 調査・<br>研究部門  | 作業スペース(一時整理室、写真撮影)                                | 50                    |
|              | 作業スペース(二次整理室、調査・研究室)                              | 120                   |
| 管理部門・<br>その他 | 事務室(作業スペースに含む)                                    |                       |
|              | 会議室(作業スペースに含む)                                    |                       |
|              | 湯沸かし室(作業スペースに含む)                                  |                       |
|              | トイレ(1 階に 30 m <sup>2</sup> のトイレを想定)               | 30                    |
|              | 倉庫・資材庫  | 50~100                |
|              | 機械室・空調・電気室  | 160                   |
|              | EV、階段(2階建てを想定した場合)                                |                       |
|              | 廊下  |                       |

### 3 施設整備位置の検討および関連施設等との機能分担

#### (1) 必要諸室で特に配慮すべき前提条件

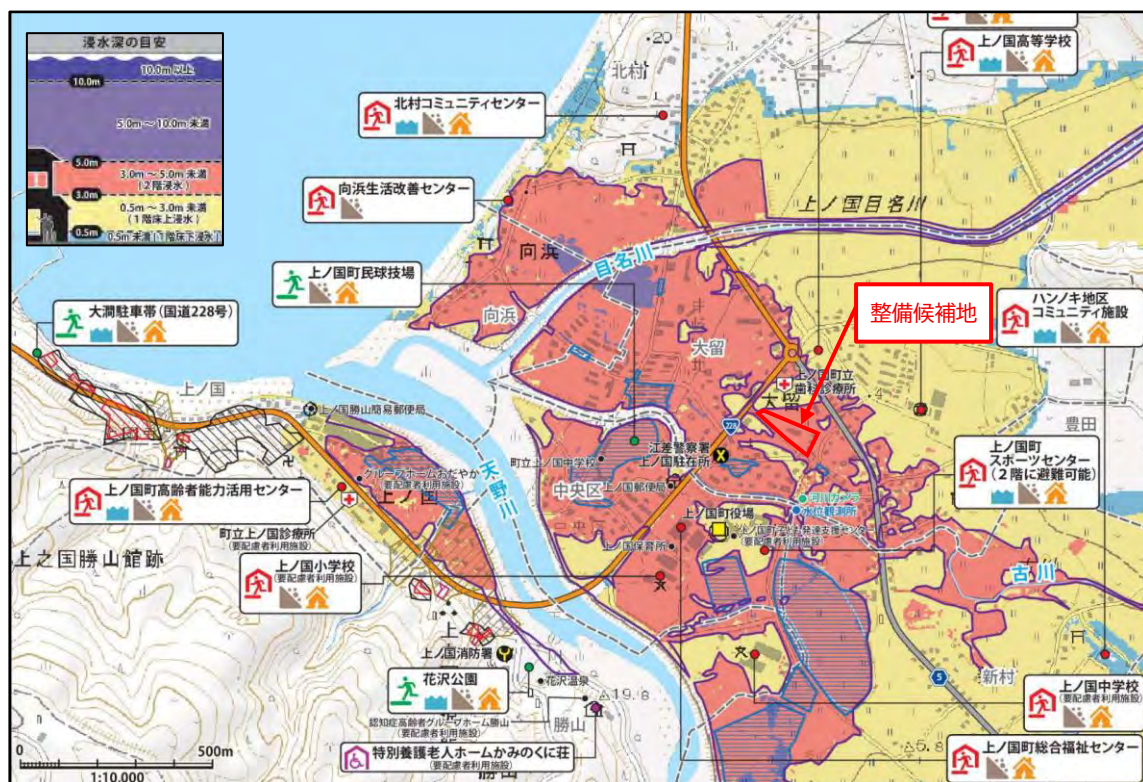
文化財ミュージアムに求められる必要諸室を整備するにあたり、特に配慮すべき前提条件を以下に整理します。

| 諸室  | 特に配慮すべき前提条件  |
|---|--|
| アイヌ御遺骨安置室                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● アイヌ御遺骨に敬意を払い本来の場所、勝山館を眺められる景色の良い場所での安置が望ましい(もとの場所への「返還」が重要)</li> <li>● 重要文化財に指定されている副葬品もアイヌ御遺骨と一緒に保管することが望ましい<br/>※空調管理が必須</li> </ul>   |
| 重要文化財の収蔵・展示                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 防災対策(浸水、耐震)が求められる<br/>※浸水しない高さでの収蔵が必須となる</li> <li>● ※浸水する高さでの展示では、災害時の対応を示す必要がある</li> <li>● 高い防火、防犯、温湿度管理、紫外線カット等の対策が求められる</li> <li>● 本物は本来の場所で見せるという基本姿勢</li> </ul>  |
| 導入部門、教育普及部門、展示部門の史跡ガイダンス・導入展示やオープンな展示スペース | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 住民や来街者がアクセスしやすい立地・環境</li> <li>● 来館したくなる魅力的な施設(活動の様子が見える、ランドマークとなる外観など)</li> <li>● 人々が集い・交流したくなる空間・環境(オープン、フレキシブル、屋内外が一体となる半屋外空間、様々な活動ができる屋外空間など)</li> <li>● 史跡上之国館跡(三館)など、周辺の歴史的資源へ意識が向くような空間等の工夫</li> </ul>  |
| 展示室(文化財等(借用展示も含む)の展示室)                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 住民や来街者がアクセスしやすい立地・環境</li> <li>● 防災対策(浸水、耐震)が求められる<br/>※浸水する高さでの展示では、災害時の対応を示す必要がある</li> <li>● 博物館法に基づくスペックの防火、防犯、温湿度管理、紫外線カット等の対策が求められる</li> <li>● 車両による搬入・搬出環境</li> </ul>                                    |
| 調査・研究部門                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 文化財の保管が想定される場合は、一定レベルの防火、防犯、温湿度管理、紫外線カット等の対策が求められる</li> <li>● 来館者が、文化財の調査・研究に興味関心を持てるような工夫(調査研究作業の様子が見える、調査研究作業に参加できるなど)</li> <li>● 出土品の整理作業のほか、発掘機材の保管、遺物洗い・保存処理、報告書や図面・写真ネガ・パンフレット等の保管など多くの面積が必要</li> </ul> |
| 重要文化財以外の文化財収蔵                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 金属製品は空気に触れると急速に酸化・錆が発生するため、防錆処理や湿度管理が必要</li> <li>● 木製品は乾燥により収縮・亀裂・変形が起こるため、価値の高い出土品は保存処理や、適切な温度・湿度管理が必要</li> </ul>  |

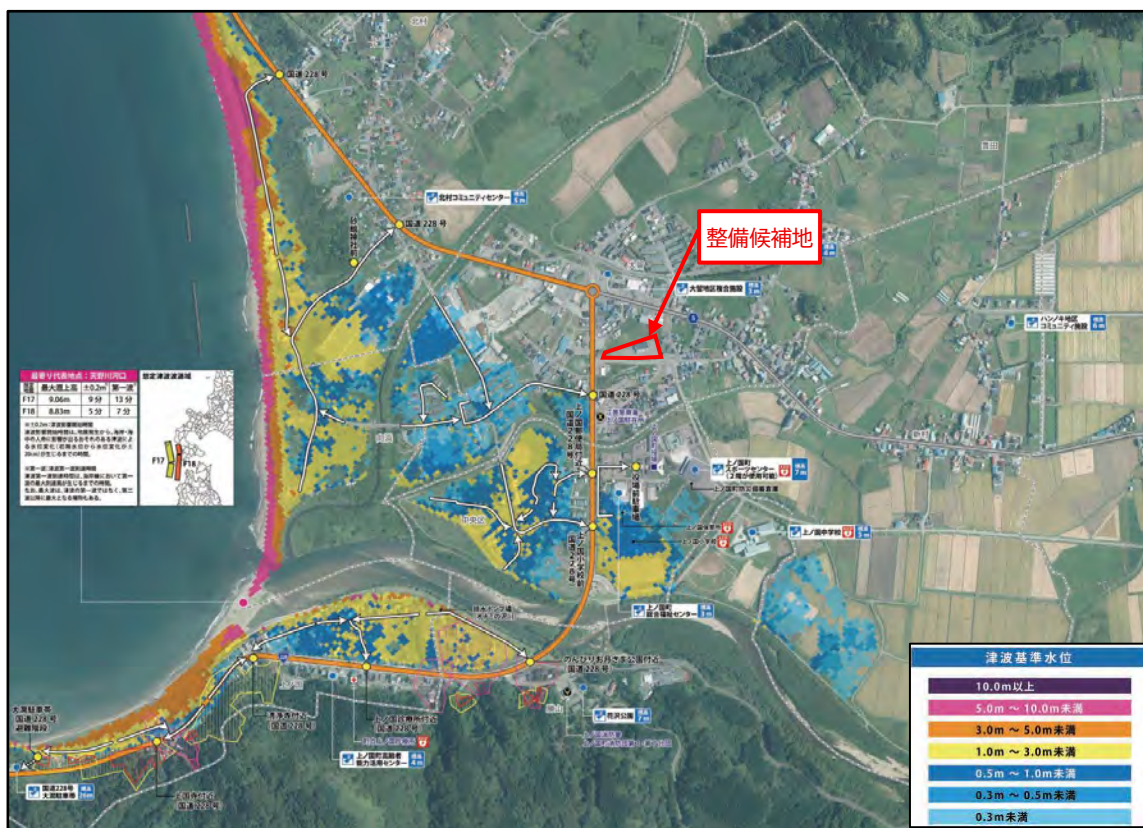
次頁に、上ノ国町のハザードマップ(洪水・津波)を示します。

なお、整備候補地となっているパーラー桃太郎跡地は、洪水時に 3m~5m未満の浸水区域、津波時に浸水区域外となっています。

<上ノ国町 洪水ハザードマップ>

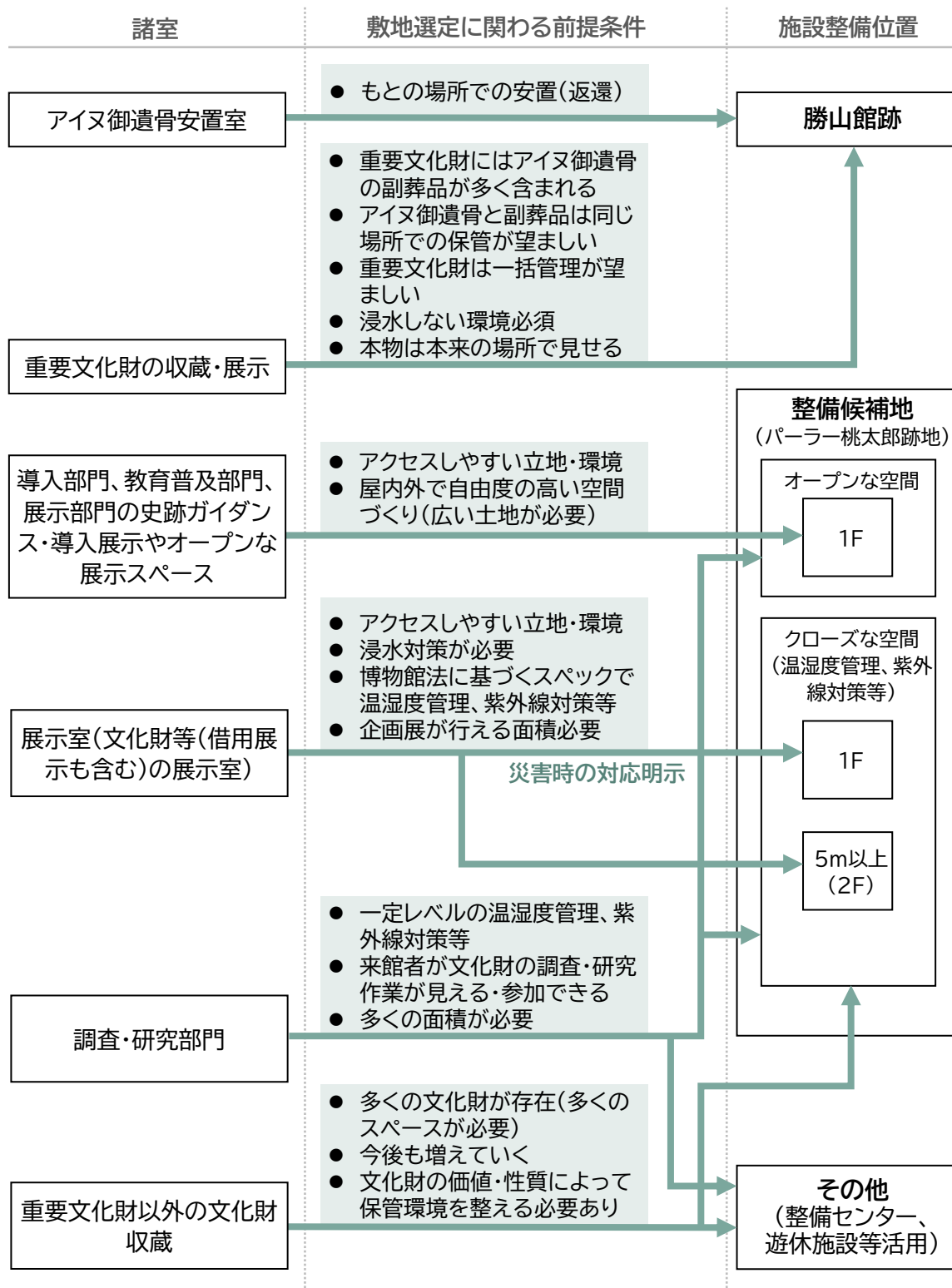


<上ノ国町 津波ハザードマップ>



## (2) 施設整備位置の検討

必要諸室で配慮すべき前提条件を踏まえ、施設整備位置の検討を以下にフローで整理します。  
 これにより、アイヌ御遺骨安置室と重要文化財の収蔵・展示は勝山館跡、導入、教育、展示、調査・研究部門の諸室は、整備候補地(パーラー桃太郎跡地)、調査・研究部門の一部や重要文化財以外の収蔵はその他施設(整備センター、遊休施設等)の活用を行うこととします。



### (3)新規整備施設と関連施設等との機能分担

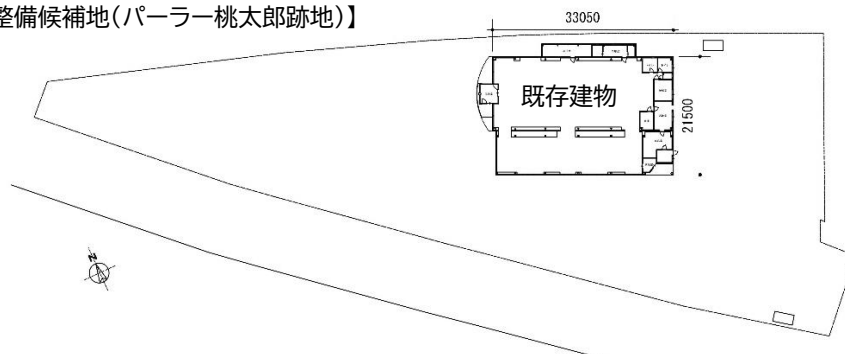
「3章 3 施設整備位置の検討」より、新規整備施設と既存関連施設等の機能分担を以下に整理します。

なお、本構想において、勝山館跡に整備するアイヌ御遺骨安置室と重要文化財の収蔵・展示施設名称は、「文化財ミュージアム重文保管展示・御遺骨安置施設」、整備候補地(パーラー桃太郎跡地)に整備する展示・教育・調査研究施設名称は、「文化財ミュージアム拠点施設」と明記します。

#### ① 文化財ミュージアム拠点施設【新規整備】

|    |  |
|----|--|
| 機能 | <b>導 入:</b> 受付／インフォメーション／ショップ／滞留スペース<br><b>展 示:</b> 三館を中心としたガイダンス／導入・オープンな展示室／企画展示室<br><b>教育・普及:</b> 体験スペース・プログラム／閲覧・学習スペース<br><b>収 蔵:</b> アイヌ関連文化財／三館で出土している金属製品／整理作業中の遺物の一時保管／荷解室<br><b>調査・研究:</b> 一次整理室／二次整理室／調査・研究室<br><b>管理・その他:</b> 事務スペース／トイレ／倉庫 など |
| 面積 | 既存建物活用(約 700 m <sup>2</sup> ) + 増築・別棟新築(約 300 m <sup>2</sup> ) = 約 1,000 m <sup>2</sup>  |

【整備候補地(パーラー桃太郎跡地)】



#### ② 文化財ミュージアム重文保管展示・御遺骨安置施設【新規整備】

|    |   |
|----|---|
| 機能 | <b>収蔵展示:</b> 重要文化財の収蔵および収蔵展示<br><b>安 置 室:</b> アイヌ御遺骨の安置 |
| 面積 | 約 70~100 m <sup>2</sup>                                 |

※勝山館跡ガイダンス施設に併設

#### ③ 勝山館跡ガイダンス施設【既存 ※別棟トイレ改修整備】

|            |  |
|------------|--|
| 機能<br>(継続) | <b>導 入:</b> 勝山館跡下りルートへのガイダンス<br><b>展 示:</b> 勝山館跡遺構展示<br><b>教育・普及:</b> 体験プログラム<br><b>管理・その他:</b> 別棟トイレ(※改修整備) |
| 面積         | ガイダンス施設 約 400 m <sup>2</sup> / 別棟トイレ 約 30 m <sup>2</sup> (※改修整備)   |

【勝山館跡ガイダンス施設】



【別棟トイレ】






⑦ かみのくにまるっこまんま!!デジタルミュージアム【既存】

|    |  |
|----|--|
| 機能 | <p>デジタルアーカイブ:上ノ国町のアイヌ資料を含む文化財の他、周辺の自然環境や人々の活動を“まるっこまんま”(上ノ国の方言で「全部」という意味)、デジタルアーカイブでわかりやすく公開。</p> <p>文化財などの悉皆調査は、現在上ノ国町史編さん事業の中で継続的に行われており、新たに発見された資料についてデジタルアーカイブで順次更新。</p> |
|----|--|

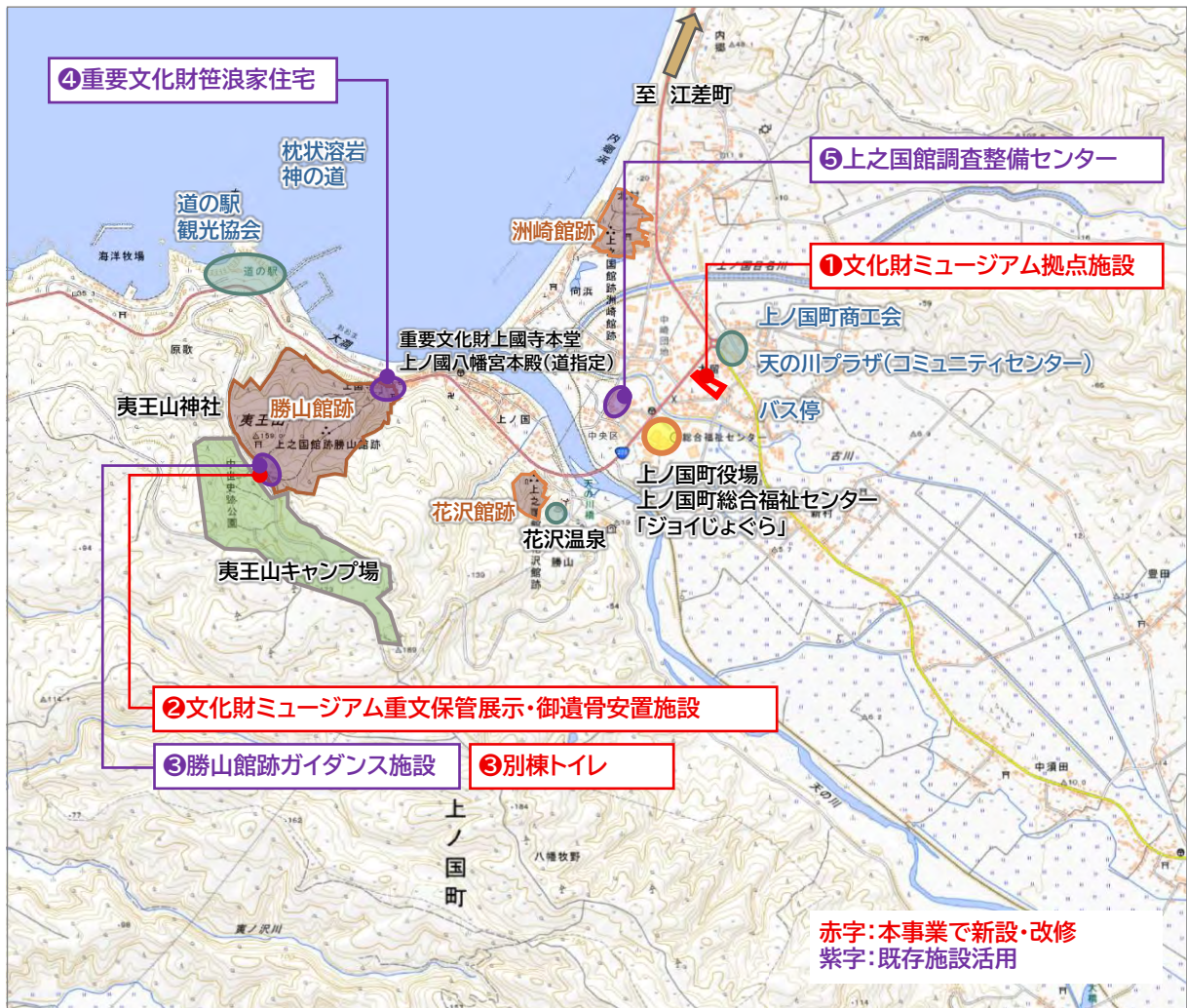
【デジタルアーカイブ HPトップページ】





かみのくにまるっこまんま!!  
デジタルミュージアム 二次元コード

<機能分担配置図>



## 4 新規整備施設機能構成・整備条件

### (1)文化財ミュージアム拠点施設

#### ① 施設の位置づけ

- 上ノ国町の歴史文化に触れる入口となる施設として、また、上ノ国町の文化財や歴史文化の専門的な調査・研究のための拠点施設とする。
- 上ノ国町の歴史文化(特に、アイヌと和人の共生の歴史文化)や、文化財について正しく理解できるような展示や情報提供、体験や学習、様々なイベントが出来るような施設とする。
- 町民学芸員や神の国ファンクラブ等、歴史文化にかかわる町民の活動拠点となる施設とする。
- 本施設から、周辺資源へと誘導する、町内歴史文化関連施設・資源のネットワーク拠点施設とする。

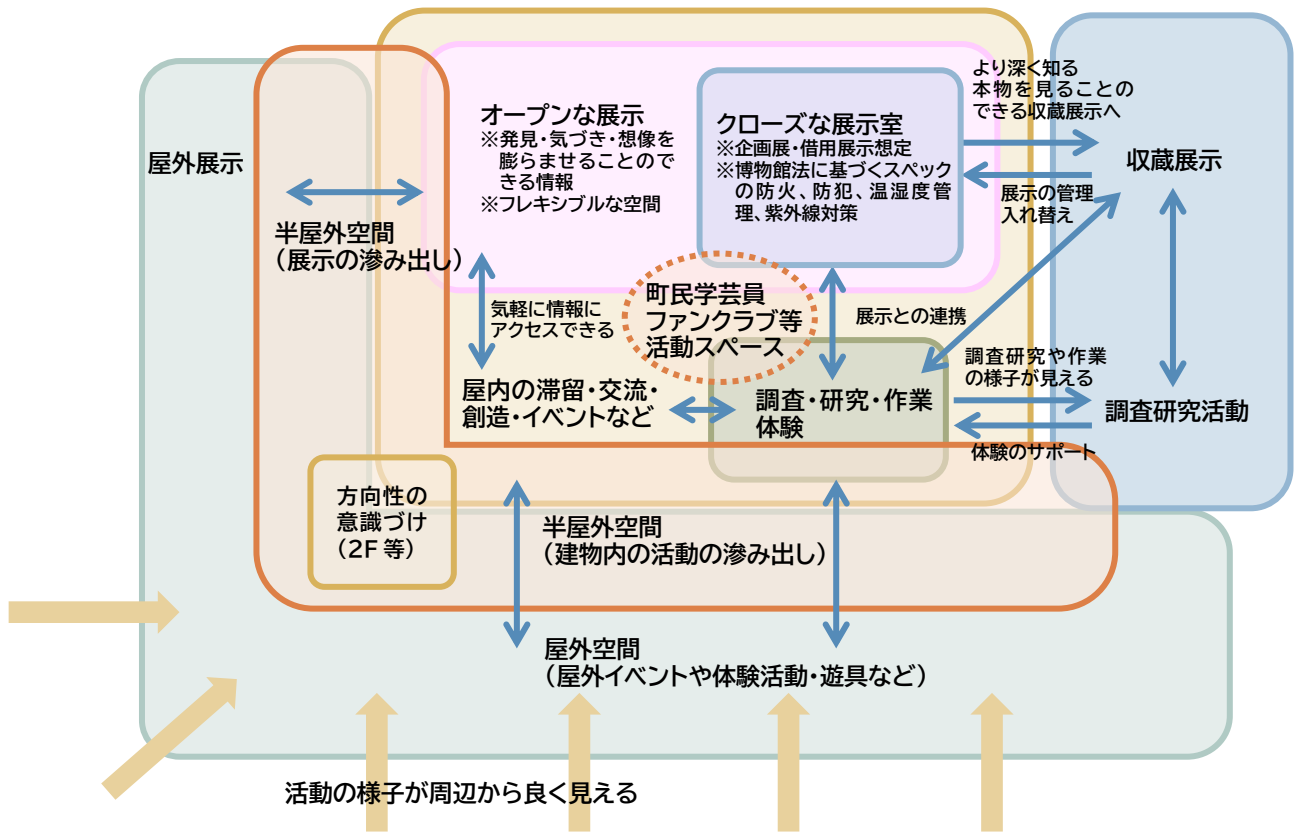
#### ② 機能構成の考え方

- 展示空間は、博物館法に基づく一定程度のスペースを持つ展示室(企画展・借用展示も想定)、気軽に情報を得ることのできるオープンな展示空間(三館を中心としたガイダンス機能や町内インフォメーション機能も含む)、屋外や半屋外の展示空間など、多様な展示空間で構成する。
- 町民や来訪者が、本施設に気軽に集まり、日常的な憩いや遊び、交流を行う中で、身近に上ノ国町の歴史文化を知り、興味関心を深め、能動的な関わりにつなげていけるよう、滞留・交流スペース、町民活動スペース、調査・研究・作業体験スペースを設け、オープンな展示スペースも含めて、これらがシームレスに繋がるような機能構成とする。
- 来館の動機付けとなるよう、建物内での上記の活動が、半屋外や屋外空間にもしみ出し、活動の様子が周辺からも見えるような機能構成とする。
- 現在、上之国館調査整備センターで行っている調査・研究のメイン機能(一次・二次整理室、調査・研究室)を移設する。専門的な調査・研究のために必要となる施設の機能は維持しながらも、来館者の調査・研究への関心を高めることが出来るよう、作業の様子を見ることが出来たり、作業に参画することができるような機能構成とする。

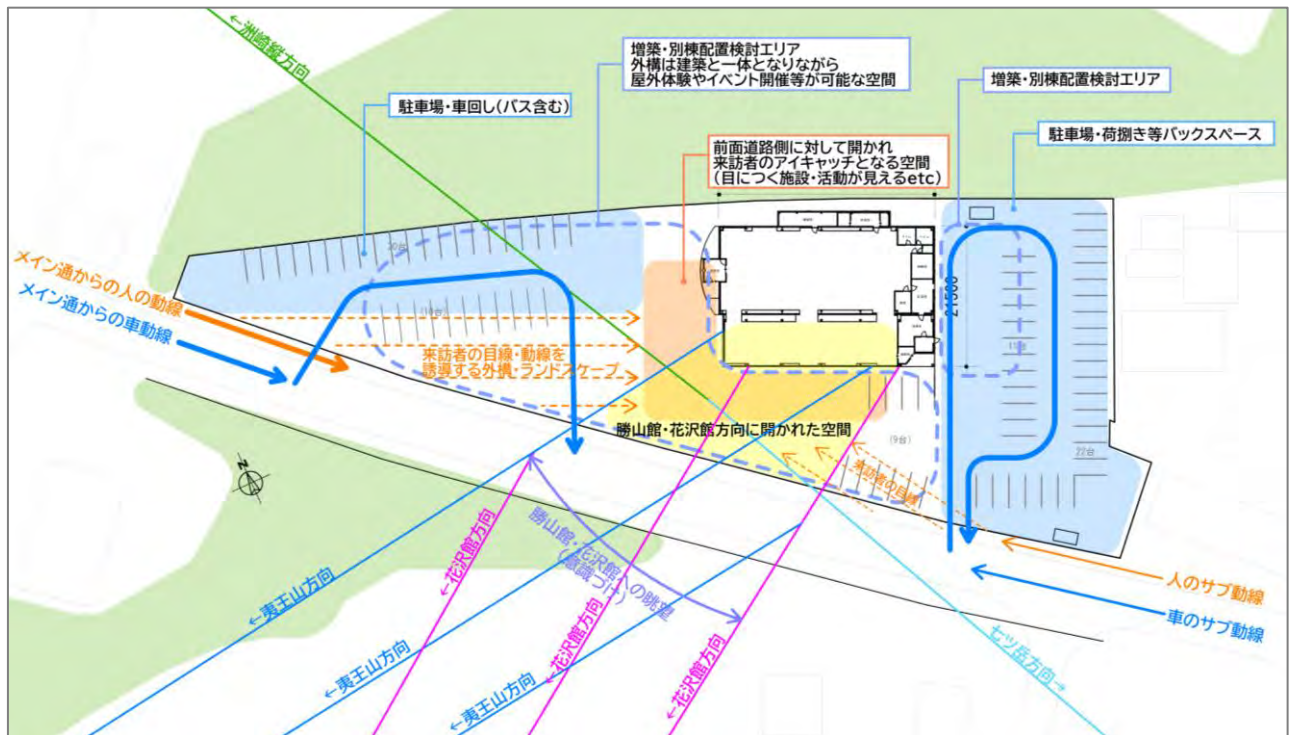
#### ③ 整備条件

- 既存建物を活用し、これの改修および増築もしくは別棟新築により整備する。また、既存施設の外観はミュージアムにふさわしいものに更新する。
- 町民・来訪者が来やすい施設とするため、来訪者の動線を考慮し、町民・来訪者を誘引するような施設配置・デザイン、および外構計画とする。
- 外構には建築と一体となりながら、屋外体験やイベント開催、子どもが遊べる広場を計画する。
- 周辺資源への誘導につなげるため、周辺資源方向への眺望など周辺資源への意識づけを考慮した計画とする。
- 来訪者用駐車場に加え、観光バスの車回しスペースや、職員駐車場、荷捌き車両(展示品や資材等の搬入車両)の車回しスペースを確保する。合わせて、冬期間の堆雪スペースも考慮する。
- 周辺資源へのアクセス向上のため、コミュニティバスなどの乗降やレンタサイクル等の貸し出しスペースを想定する。

<文化財ミュージアム拠点施設 機能構成ダイアグラム>  
 ~人々が集まり、憩い、交流・創造が生まれる機能構成



<文化財ミュージアム拠点施設 敷地条件図>



敷地面積:4974.184 m<sup>2</sup>  
 建築想定延床面積:約 1,000 m<sup>2</sup>前後  
 既存建物:750.276 m<sup>2</sup>、鉄骨造平屋建  
 想定駐車台数:50~60 台程度を想定 (機能構成・規模等の精査により今後詳細に検討)

### 参考:文化財ミュージアム拠点施設駐車場台数の算定

(前提整理)

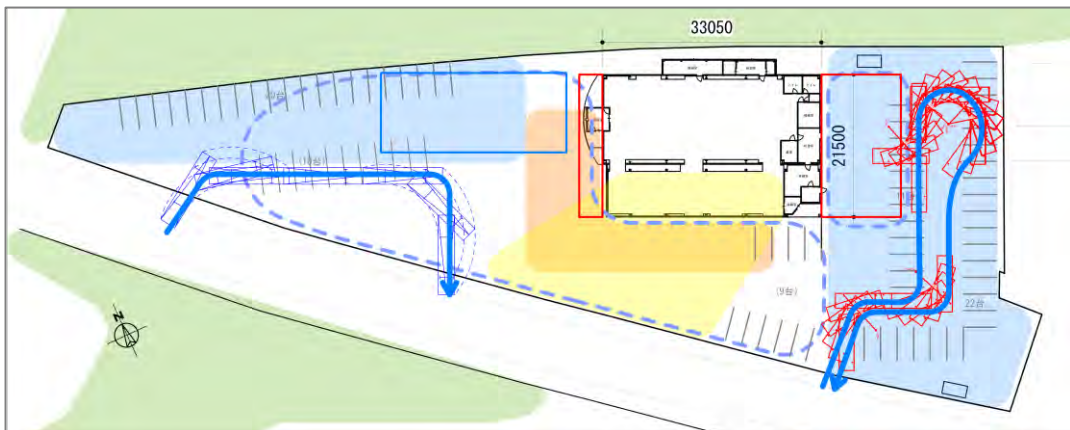
|                  |         |                                     |
|------------------|---------|-------------------------------------|
| ピーク1時間来館者数:      | 80 人/h  | ※イベント・企画展の最大想定                      |
| 自動車分担率:          | 70 %    | ※地方都市は高め(例:60~85%)                  |
| 平均乗車人数:          | 2.2 人/台 | ※家族・観光で 2.0~2.5 人/台が多い              |
| 平均滞在時間:          | 1.5 h   | ※常設中心 博物館の1.0~1.5h、企画展で 1.5~2.0h など |
| 職員用:             | 8 台     |                                     |
| 予備(繁忙・天候・重複ピーク): | 10 %    | ※10~20%                             |

(駐車場台数の算定)

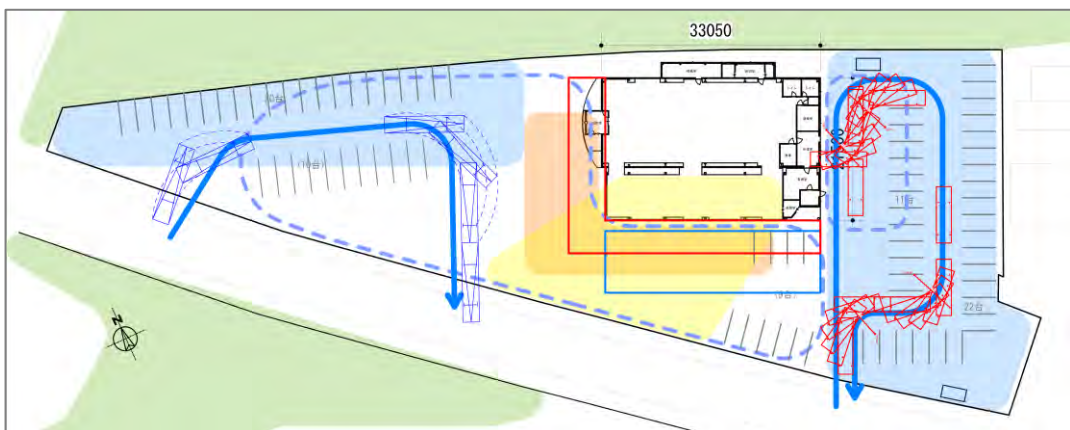
|          |   |                                     |   |       |   |                    |
|----------|---|-------------------------------------|---|-------|---|--------------------|
| 来館者用駐車台数 | = | $80 \times 0.7 \div 2.2 \times 1.5$ | = | 38.18 | = | 約 39 台             |
| 来館者+職員   | = | 39+8                                | = | 47    | = | 約 47 台             |
| 予備       | = | $47 \times 0.1$                     | = | 4.7   | = | 約 5 台              |
| 合計       | = | 51.7                                | = |       | = | 約 52 台(うち車いす用 2 台) |

### 参考:増築・別棟新築位置に応じた大型バス・荷捌き車両の軌跡シミュレーション

(既存建物の東と西に増築・別棟新築をした場合の車両軌跡シミュレーション)



(既存建物の南側に増築・別棟新築をした場合の車両軌跡シミュレーション)



## (2)文化財ミュージアム重文保管展示・御遺骨安置施設

### ① 施設の位置づけ

- 勝山館跡で出土したアイヌの副葬品を含む重要文化財をアイヌが活動し、埋葬された勝山館跡の現地において、収蔵しながら見学することもできる収蔵・展示機能を持った施設とする。また、アイヌ御遺骨についてもアイヌが活動し、埋葬された勝山館跡で副葬品と共に安置し、アイヌの尊厳に配慮した慰霊施設とする。
- 勝山館跡ガイダンス施設(遺構展示・勝山館跡のガイダンス)と連携し、「本物」を体感しながら、アイヌと和人が共生して暮らしていた過去の世界観を知り、アイヌ・和人双方の先人への慰霊の心を育み、そして、現代における共生のあり方を考えることの出来る場として位置付ける。

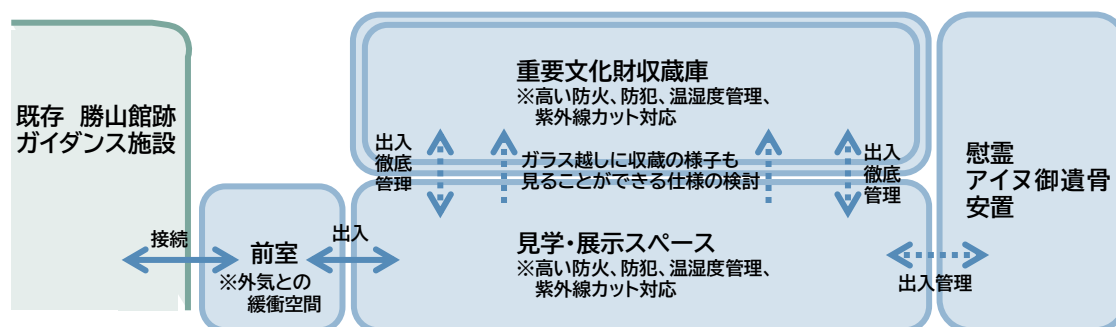
### ② 機能構成の考え方

- 出入りを徹底管理した重要文化財収蔵庫、重要文化財の一部展示と見学ができる見学・展示スペース、慰霊・アイヌ御遺骨安置室、外気の直接流入を避けるための鑑賞空間となる前室で構成し、既存の勝山館跡ガイダンス施設と接続する。重要文化財収蔵庫として文化財を長きにわたり維持管理できるような温湿度・空気質の管理、外光に対する遮蔽などの設備を備えるものとする。

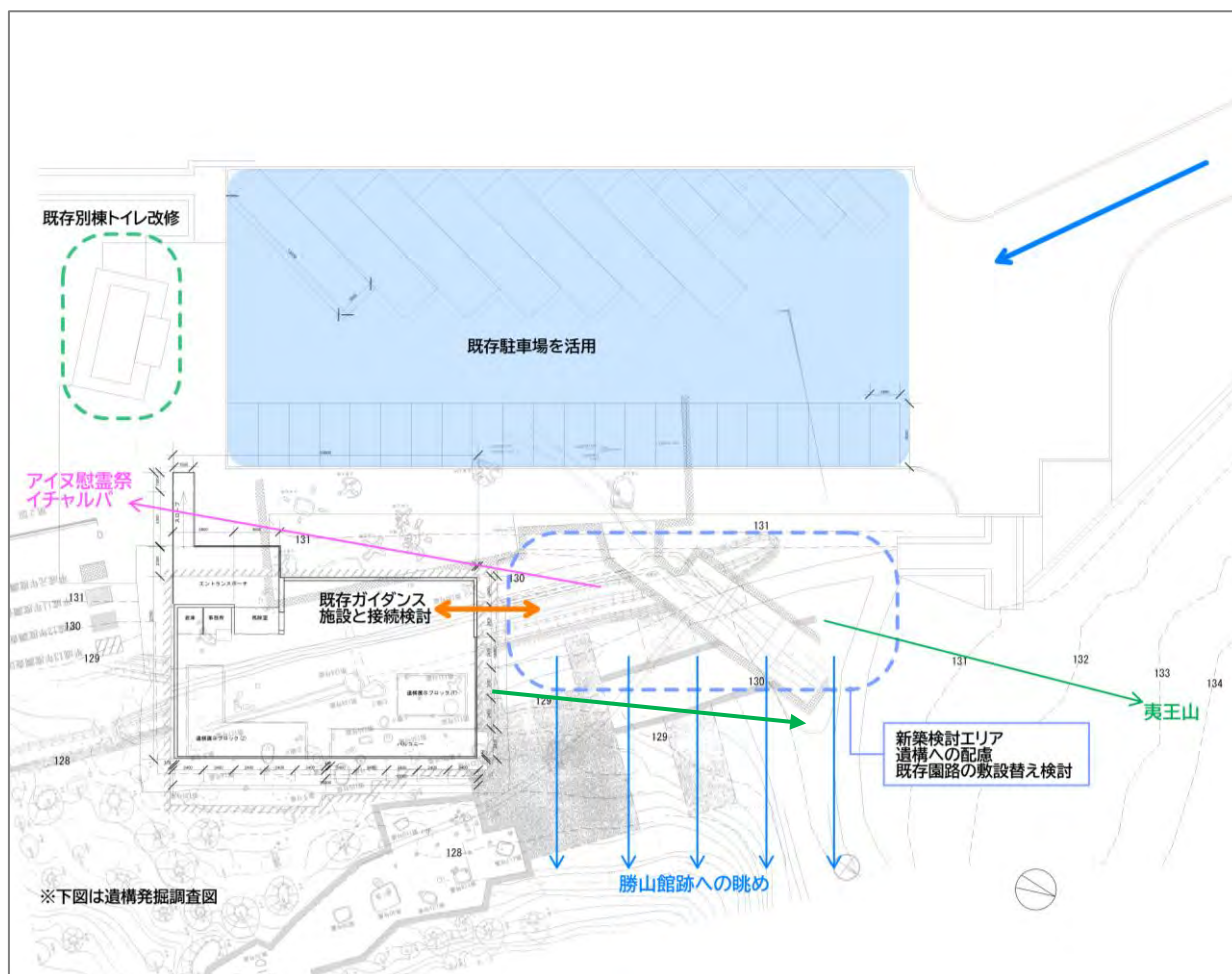
### ③ 整備条件

- アイヌ御遺骨安置場所として敬意を払い、本来あるべき場所である勝山館跡を眺めることのできる環境の良い位置(勝山館跡の頂部)での整備を想定する。
- 勝山館跡ガイダンス施設に接続する形で整備し、観覧者の一元管理を想定する。
- 想定位置は史跡指定地範囲内のため、浮床にするなど遺構面に影響の無い仕様・構造形式による整備とする。
- 本施設は、重要文化財の保管収蔵を行うため、文化財保護法に基づき、『文化財(美術工芸品)保存施設、保存活用施設 設置・管理ハンドブック』等に則った、防火・防犯対策、温湿度管理、紫外線対策を備えた施設として整備する。
- 既存勝山館跡ガイダンス施設の建築は、広瀬鎌二設計によるもので、文化財級の建物であり、この建物との関係性、デザインの考え方については十分配慮し、施設としての連続性、一体感を持った設計を行う。
- 駐車場は既存駐車場を活用する。
- 施設利用者やコシャマイン慰霊祭の参加者が使用する既存トイレの改修工事も合わせて行う。

### <文化財ミュージアム重文保管展示・御遺骨安置施設 機能構成ダイアグラム> ～アイヌ御遺骨と重要文化財を適切に保管しながら見学も可能な機能構成

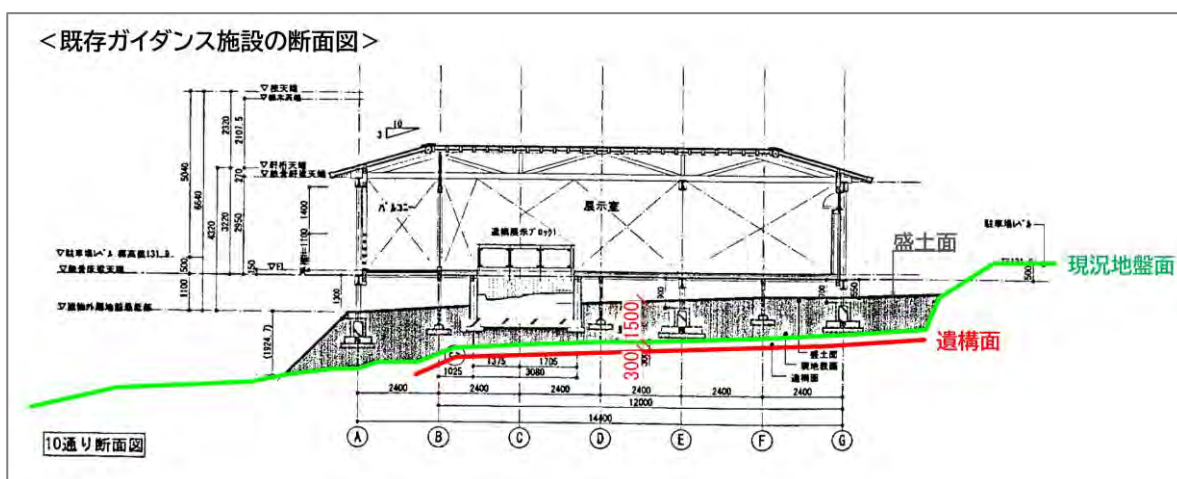


<文化財ミュージアム重文保管展示・御遺骨安置施設 敷地条件図>



敷地面積：—㎡  
 建築想定延床面積：約 70～100 ㎡  
 既存勝山館跡ガイドンス施設：約 400 ㎡、鉄骨造平屋建  
 既存トイレ：約 30 ㎡

参考：既存勝山館跡ガイドンス施設の断面図



## 5 文化財ミュージアム拠点施設の配置パターン検討

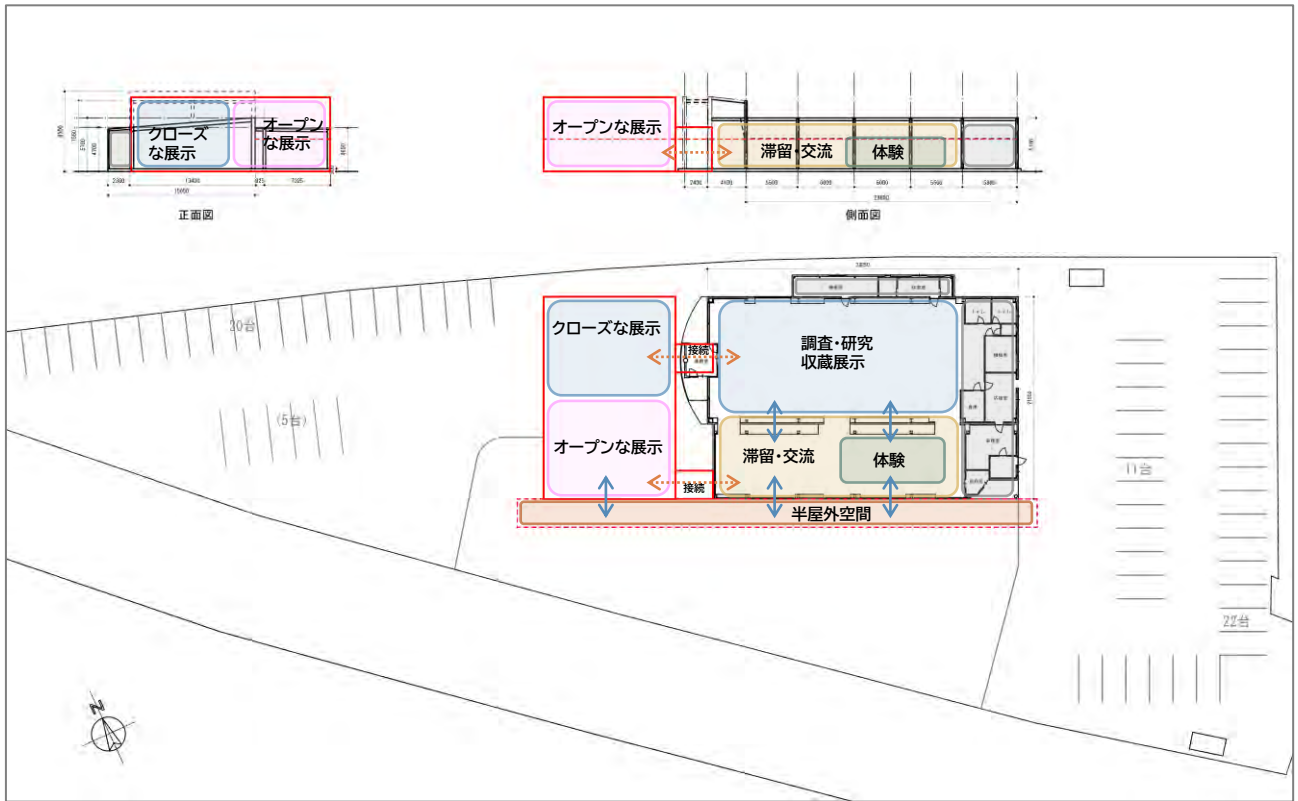
### (1) 配置パターンの比較

| 配置パターン   | メリット  | デメリット  | 建設費 | 補助金 | 総合評価 |
|--|---|--|-----|-----|------|
| <b>鞆堂方式</b><br>※既存建物の構造体との一体化による2階建設は耐力上難しいため総2階は鞆堂方式で検討 | <敷地><br>・ 建築面積を抑えることができ、外構レイアウトの自由度が高い<br>→ 駐車台数を多く取れる<br>→ 屋外広場等のスペースを自由に設定可能<br><建物ゾーニング><br>・ 増築部分がワンフロアとなるため、機能をレイアウトしやすい<br><防災(浸水)><br>・ 増築部分が2階(床レベル 5m以上)となるため、重要文化財級の展示に適応(浸水レベル上を確保できる)<br>・ 展示室を広く2階に設置できる<br><景観><br>・ 鞆堂部分が既存建物を覆うため、作り方によっては、外観整序を行うことが可能 | <構造><br>・ 2階増築部を既存建物を覆う大スパン(約 24m or 16m)構造とする必要があり、設計難易度が高い。<br><コスト><br>・ 大スパン構造となるためコストアップになる。<br><建物ゾーニング><br>・ 階段・EVスペースが必要(必要面積の増)<br>・ 2層となるため、各機能の連携に制限が出る                       | ×   | △   | △    |
| 別棟平屋建て   | <構造><br>・ 特殊な構造は不要。<br><建物ゾーニング><br>・ 増築部分がワンフロアとなるため、機能をレイアウトしやすい<br><コスト><br>・ 一般的なコストでの建設が可能。<br>・ 既存建物の解体範囲を押えることが可能。   | <敷地><br>・ 建築面積が大きくなり外構レイアウトの自由度が低い<br>→ 駐車台数が少ない<br><防災(浸水)><br>・ すべてのフロアが浸水範囲となるため、重要文化財級の展示の際には対応策を示す必要がある<br><建物ゾーニング><br>・ 既存棟との連絡路もしくは別途エントランスが必要(必要面積の増)<br>・ 別棟となるため、各機能の連携に制限が出る | ○   | ○   | ○    |
| 別棟2階建て   | <構造><br>・ 特殊な構造は不要。<br><コスト><br>・ 一般的なコストでの建設が可能。<br>・ 既存建物の解体範囲を押えることが可能。<br><防災(浸水)><br>・ 面積に限りはあるが、2階(床レベル 5m以上)部分をつくれるため、重要文化財級の展示に適応(浸水レベル上を確保できる)   | <敷地><br>・ 建築面積がやや大きくなり外構レイアウトの自由度がやや低い<br>→ 駐車台数がやや少ない<br><建物ゾーニング><br>・ 増築部分が2層となるため、機能のレイアウトに制限あり<br>・ 各機能の連携に制限が出る<br>・ 既存棟との連絡路もしくは別途エントランスが必要(必要面積の増)<br>・ 階段・EVスペースが必要(必要面積の増)     | △   | ○   | ○    |
| 増築<br>(平屋建て)   | <敷地><br>・ 建築面積を抑えることができ、外構レイアウトの自由度が高い<br>→ 駐車台数を多く取れる<br>→ 屋外広場等のスペースを自由に設定可能<br><建物ゾーニング><br>・ 全てがワンフロアとなるため、機能をレイアウトしやすい<br>・ 各機能の連携が取りやすい<br>・ 階段・EV・渡り廊下などが不要で面積を押えることができる<br><景観><br>・ 既存建物を覆うため、外観整序を行うことが可能   | <構造><br>・ 既存建物との調整が大きくなるためやや難易度があがる<br><コスト><br>・ 既存建物の解体面積が大きくなることと接合部の調整など詳細調査によってはコストアップとなる可能性がある<br><防災(浸水)><br>・ すべてのフロアが浸水範囲となるため、重要文化財級の展示の際には対応策を示す必要がある                         | ◎   | △   | ○    |

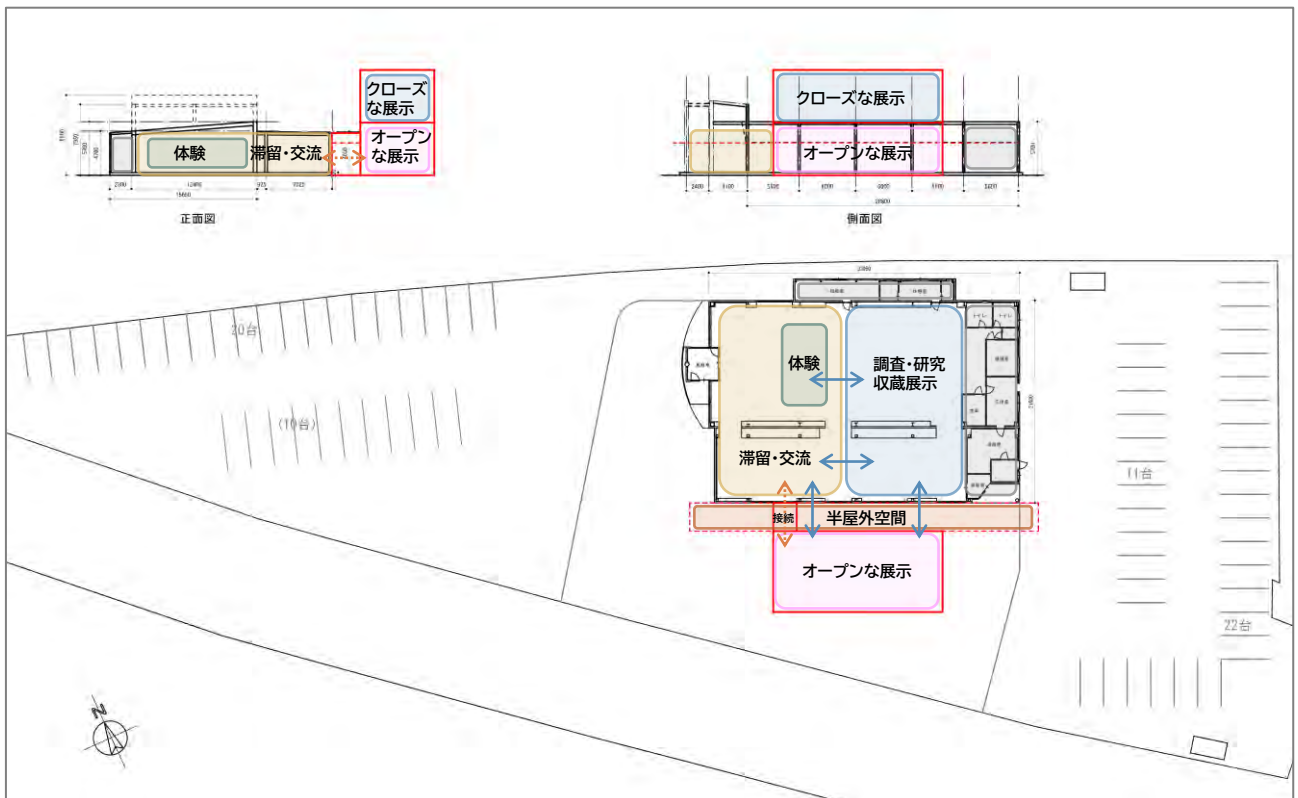
## (2)配置パターンシミュレーション

### <別棟パターン>

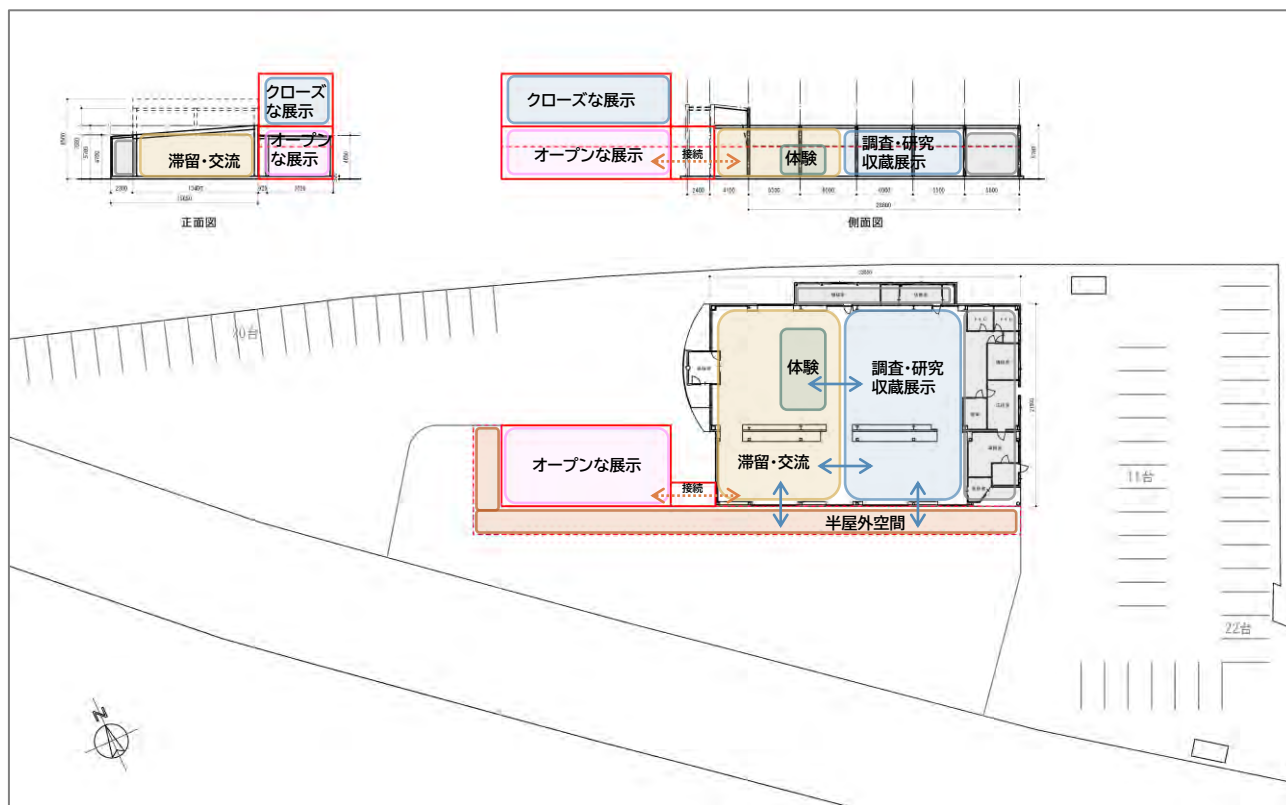
#### ◆パターン01~平屋別棟



#### ◆パターン02~2階建て別棟①

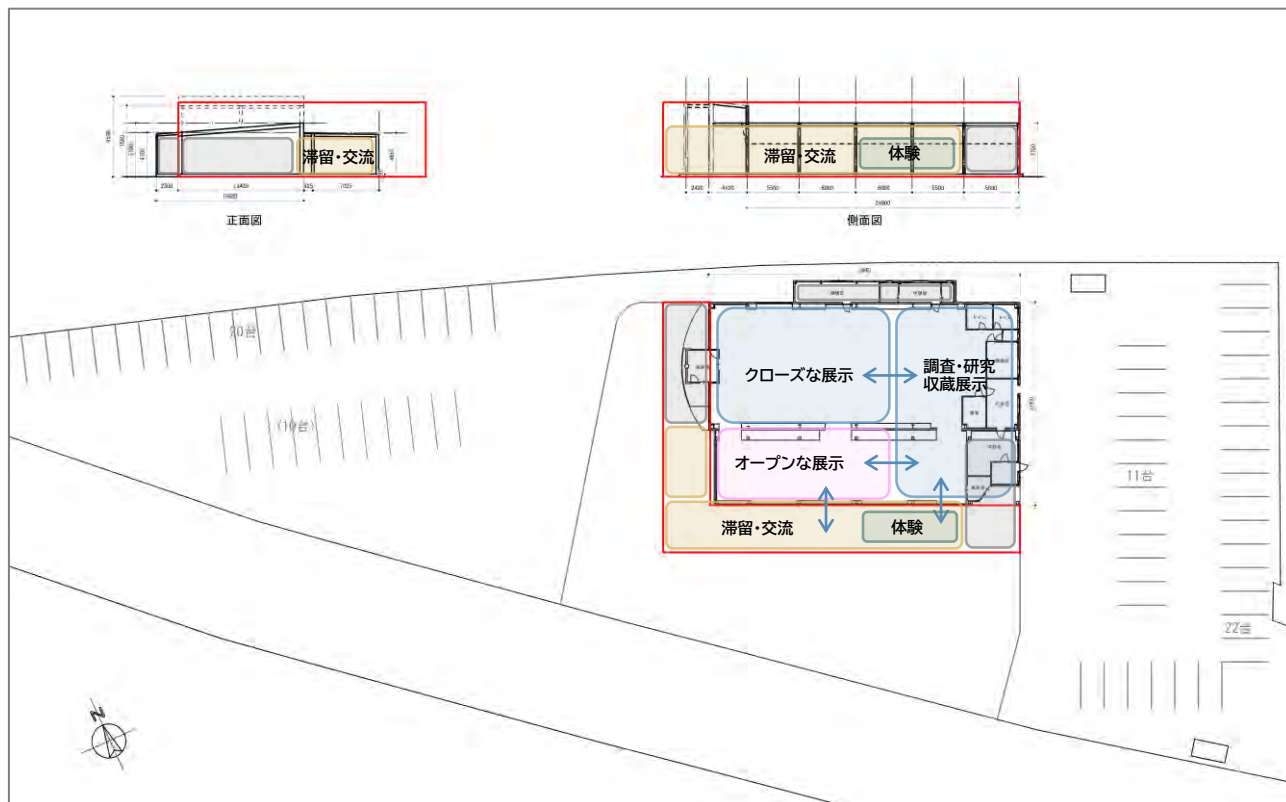


◆パターン 03～2階建て別棟②

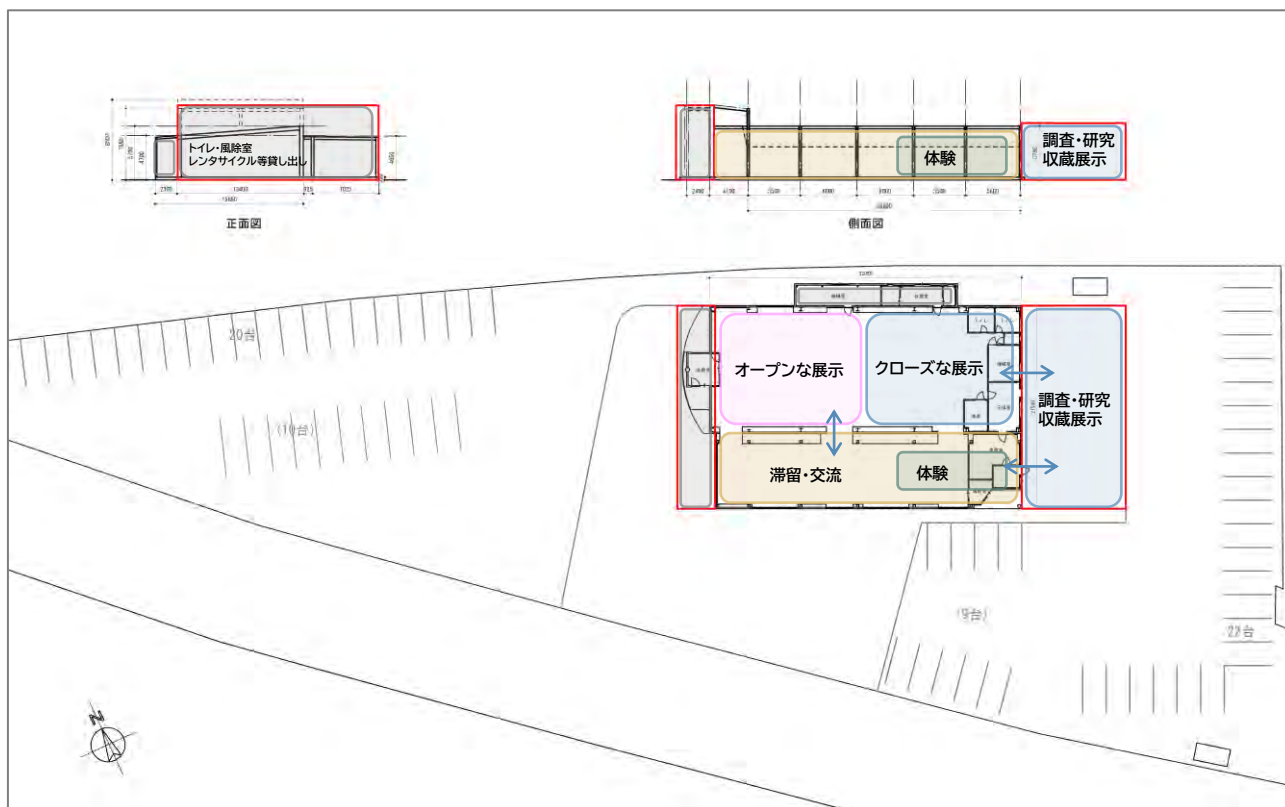


<増築パターン>

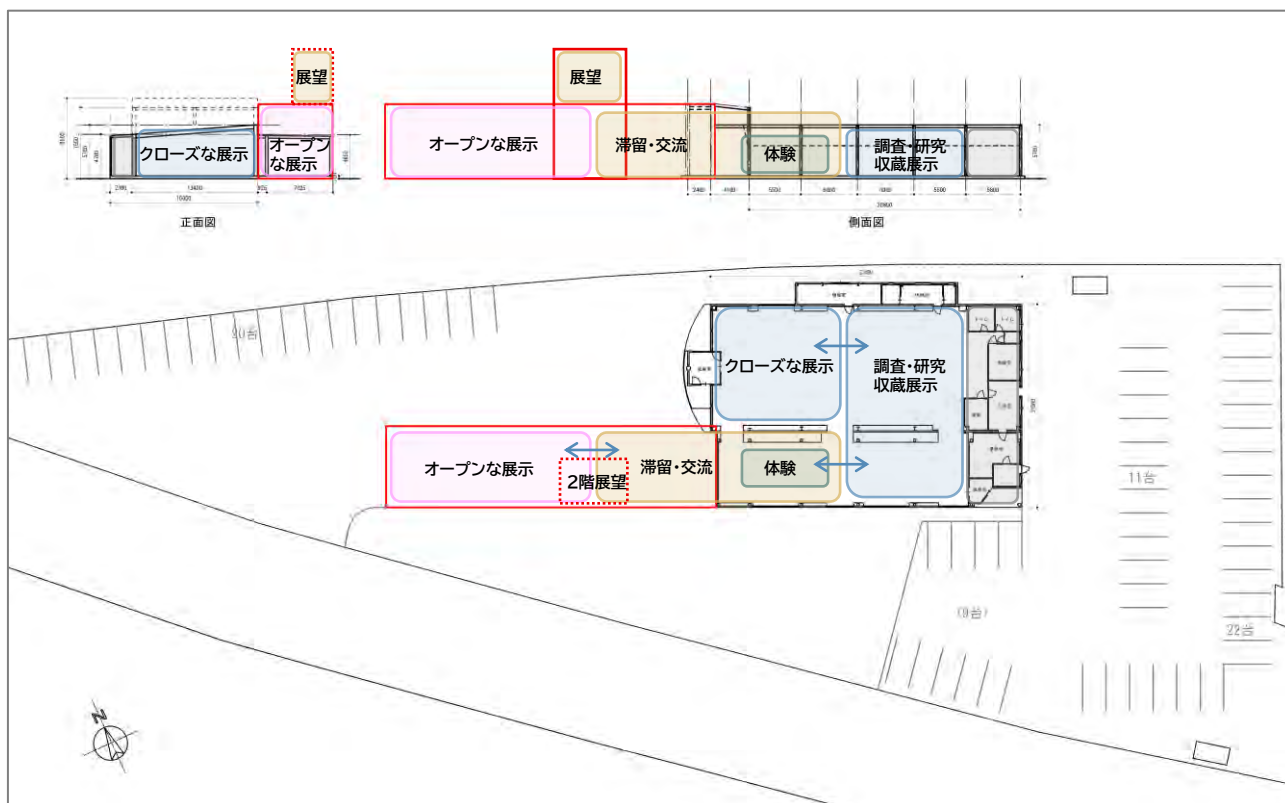
◆パターン 01～西面・南面の2面(メインアプローチからよく見える2面)に増築



◆パターン 02～西面と東面(メインアプローチから見て背面)の2面で増築(平屋)



◆パターン 03～既存建物に最小限の接続で西面に増築(平屋・一部 2F 展望室)



## 6 管理運営・施設整備手法

### (1)管理運営手法

施設の管理運営にあたっては、自治体直営、指定管理者制度、第三セクターや民間法人による運営など複数の手法が考えられます。

特に、本施設はアイヌ文化の振興およびアイヌ民族の所得向上を目的とした事業として位置付けられることから、アイヌ民族関係者を含む地域主体の法人組織による運営も視野に入れた検討が必要です。

また、内閣府のアイヌ施策推進交付金を活用する場合には、自治体が申請主体となりつつ、実際の事業実施は外部団体へ委託する方式が一般的であるため、今後、地域団体等の参画を含めた運営体制について検討を進めるとともに、施設の有料化(部分有料化も含む)等についても検討を行う必要があります。

管理運営手法のパターン

| 管理運営手法             | 概要   | メリット   | デメリット  | 交付金との相性                                  |
|--------------------|--|--|--|--|
| 直営<br>(自治体運営)      | 自治体が施設運営・職員雇用を直接行う                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 文化財管理の信頼性が高い</li> <li>● 学芸業務の継続性</li> <li>● 行政の責任が明確</li> </ul>                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 人件費が増大</li> <li>● 企画・運営の柔軟性が低い</li> <li>● アイヌ民族の雇用促進が制度上やや難しい</li> </ul>          | 交付金自体は活用可能だが、アイヌ民族の「所得向上」や「地域主体運営」の評価が弱い |
| 直営<br>+<br>一部外部委託  | 施設は自治体の直営だが、業務の一部(展示運営、ガイド、体験プログラム、カフェ、物販、清掃など)を外部委託する | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 直営の信頼性</li> <li>● 柔軟な事業</li> <li>● 民間ノウハウを部分的に活用できる</li> <li>● アイヌ民族の雇用を実現</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 業務管理が必要</li> <li>● 業務分担の調整が必要</li> <li>● 行政側に一定の事務的負担が生じる</li> </ul>              | 交付金の活用は可能。交付金を活用して、運営の一部を委託するのは一般的。      |
| 指定管理者              | 自治体が施設を設置し、運営を民間団体に委ねる                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 民間ノウハウを活かした集客・運営</li> <li>● 人件費の柔軟な運用</li> <li>● イベント・企画が機動的</li> </ul>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 文化財管理の専門性が担保しにくい</li> <li>● 指定期間ごとの更新が必要</li> <li>● 重要文化財等の管理は慎重な検討が必要</li> </ul> | 自治体が事業主体であれば適用可                          |
| 第三セクター             | 自治体と民間が出資する法人が施設を運営する                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 公共性と事業性の両立</li> <li>● 地域振興型の施設に適する</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 経営責任が曖昧になりやすい</li> </ul>  | 自治体が関与すれば事業実施可                           |
| 法人運営(NPO・一般社団法人など) | 自治体が設置した施設の運営を、地域団体やNPOに委託する                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域主体の運営が可能</li> <li>● 文化活動や地域参加型運営と相性が良い</li> </ul>                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 運営基盤が弱い場合がある</li> <li>● 専門職員の確保が課題</li> </ul>                                     | 自治体が事業主体となり委託する形で可能                      |
| PPP(公民連携)モデル       | 民間事業者が施設運営を担い、収益事業を組み合わせる                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 民間投資や経営ノウハウを活用</li> <li>● 収益性を高めやすい</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 文化財保護との両立が難しい場合がある</li> <li>● 制度設計が複雑</li> </ul>                                  | 公共性の説明が必要                                |

## (2)施設整備手法

施設の整備にあたっては、以下の表で整理した通り、自治体直営、DB方式、PFI方式など複数の手法が考えられます。本施設の建設や管理運営に適合する方式を引き続き検討していきます。

施設整備手法のパターン

| 方式             | 概要                       | 特徴   | 留意点  |
|----------------|--------------------------|--|--|
| 直営整備方式         | 自治体が直接設計・施工を発注           | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 文化財保護や学芸機能を安定的に確保</li> <li>● 行政施策(文化財保護・アイヌ施策)と一体的に実施可能</li> <li>● 長期的な施設管理がしやすい</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 建設費・維持費の財政負担が大きい</li> <li>● 運営の柔軟性がやや低い</li> </ul>      |
| 設計施工一括方式(DB方式) | 設計と施工を一括で民間事業者へ委託        | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 事業期間の短縮</li> <li>● コスト縮減の可能性</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 設計の自由度が制限される可能性</li> <li>● 行政側の設計コントロールが弱くなる</li> </ul> |
| PFI方式(民間資金活用)  | 民間事業者が資金調達・設計・建設・維持管理を行う | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 初期投資の財政負担を平準化できる</li> <li>● 民間の技術や管理ノウハウを活用できる</li> </ul>                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 契約スキームが複雑</li> <li>● 小規模施設では採算が取りにくい</li> </ul>         |
| 補助金併用整備        | 国や自治体補助金を活用              | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 自己負担軽減可能</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 補助対象要件・スケジュールの管理が必要</li> </ul>                          |

## 第4章 今後の進め方

### 1 検討課題

- 周辺市町村等も含めたアイヌ関連団体等との連携体制構築。
- 基本構想の町民への周知と、町民参画による文化財ミュージアム事業推進に向けた取組み。
- 管理運営体制の確立と、ソフト事業・体験プログラム・コンテンツ造成の検討と試行。
- 基本計画、基本設計時から展開する文化財ミュージアム事業の他基本計画やソフト事業・管理運営体制の検討を踏まえた、文化財ミュージアム拠点施設の機能構成、施設配置、建築計画の精査。
- 本事業の目的に則した展示内容、展示手法等の詳細検討。
- 文化財の性質に応じた展示・収蔵・保管環境の詳細検討。
- 史跡勝山館跡の指定範囲内に整備する文化財ミュージアム重文保管展示・御遺骨安置施設建設に向けた、遺構面保護が可能な構造、仕様の詳細検討と関係機関等との調整協議。

### 2 文化財ミュージアム施設建設事業スケジュール

|                 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11 | R12 |
|-----------------|----|----|----|-----|-----|-----|
| 基本構想・基本計画策定     | ■  |    |    |     |     |     |
| 基本設計            |    | ■  |    |     |     |     |
| 実施設計            |    |    | ■  |     |     |     |
| 建設工事            |    |    |    | ■   |     |     |
| 竣工(文化財等移設、運転準備) |    |    |    |     |     | ■   |

---

『上ノ国町文化財ミュージアム建設基本構想』

発行日：2026年3月26日

発行者：上ノ国町教育委員会

連絡先：syakyou@town.kaminokuni.lg.jp